

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	長野地域子ども元気プロジェクト事業（アートであそぼうさい）
事業主体 （連絡先）	長野広域連合 長野市松岡二丁目42番1号
事業区分	（8）その他地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	3,520,000円（うち支援金：2,789,000円）

事業内容

- 令和元年東日本台風災害から復旧した長野市長沼体育館で防災講習（防災グッズの紹介や当時の被災農家からのお話し）を行うことで、防災意識・知識の向上に繋げる機会とした。
- ライブイベントアーティストで画家の新宅百絵氏を講師に招き、絵の具で遊ぼう体験や参加者が持ち寄った資源ごみでお面を作るアート体験を行った。
- 長沼地域のりんごを参加者に販売する直売コーナーを設けた。（農家支援）
- 実施日 10/9（月・祝）
- 会場 長沼体育館（長野市）
- 参加計 32組 延べ 102人

事業効果

- 令和元年東日本台風の時のお話を被災農家から聞いたり、防災グッズの紹介を通して避難時の行動を学ぶことにより防災意識の向上が図れた。
- 普段、汚さないようにと言われる子ども達が絵の具まみれになる、非日常体験を提供できた。
- 被災農家のりんごを購入することにより少しでも農家支援することができた。

今後の取り組み

事業の実施内容等を関係市町村で共有することにより、今後の関係市町村での取り組みに活かしていく。

3年間実施した「長野地域子ども元気プロジェクト」の事業をホームページ上で紹介する。



【防災講習の様子】

【目標・ねらい】

- ① 防災意識・知識の向上
- ② 環境問題についても考える機会を設ける
- ③ 子ども達を元気にする

※自己評価【 B 】

【理由】

- ・災害時に備えておくべきものを改めて考えてもらえた。
- ・クイズ形式で分かりやすく防災グッズの紹介をしていただいたため、小さな子どもでも飽きずに学ぶことができた。
- ・絵の具であそぼう体験は子ども達に貴重な経験を提供できた。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	杏サミット～杏がつなぐヒト・モノ・コトの交流～
事業主体 (連絡先)	長野市（長野市教育委員会 文化財課 松代文化施設等管理事務所） (026-278-2801)
事業区分	(3) 教育文化の振興
事業タイプ	ソフト
総事業費	2,882,000 円（うち支援金：2,263,000 円）

事業内容

松代藩最後の藩主・真田幸民没後 120 年忌にあたり、真田家と幸民の実家である宇和島藩伊達家の縁を見つめ直し、互いの城下町の歴史を学ぶ。また、特産の杏も宇和島から持ち込まれたとの伝承があり、杏の歴史や伝統産業について学習成果を発表し相互交流をはかる。

- ・開催日 11 月 9 日（木）
- ・場 所 松代文化ホール
- ・参加者 690 人（会場 169 人 オンライン 521 人）
- ・参加校 松代中学校、宇和島市城北中学校
- ・その他 ・オンライン交流会（第 1 回 10 月 5 日
第 2 回 10 月 23 日 杏ジャム作り）
・現地学習－杏の摘果、収穫作業

事業効果

- (1) 総合的な学習の時間への参加者は目標の 3.5 倍
・目標 240 人→858 人
- (2) ・サミット参加人数は目標の約 5 割にとどまった。
・会場目標 250 人→実績 169 人
・オンライン 1,000 人→実績 521 人
- (3) 松代地区への観光客数は約 9 割にとどまった
・R5 年 1～12 月 295,636 人 R4 年同 315,895 人
昨年は御開帳があり年間観光客数が多かった。
R3 年比較では 219,226 人から 3 割強の増

今後の取り組み

- ・杏の摘果、収穫、ジャム作りなどの作業を、学校と地域（生産者）と連携して体験授業ができたことは、総合的な学習の観点からも大きな成果となった。また、宇和島市とのリモート授業の試みも成果があり、両校の交流が広まり、深まった。
- ・サミットへの参加者は、広告費削減の影響もあり、目標を下回ってしまった。次年度以降は、外へ向けても積極的に情報発信を行い、貴重な成果を多くの人と共有したい。また、学校行事と合わせた平日開催についても検討が必要か。
- ・藩校・真田家・杏と 3 年続けてきたサミット方式の成果も踏まえ、より広い層をターゲットとしたインターネット空間を利用した事業方式（仮想空間でのイベント）を検討したい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【杏サミット】会場

【目標・ねらい】

- ①総合的な学習への参加者数
- ②サミットへの参加人数の増
- ③松代地区への観光客の増

※自己評価 【B】

【理由】

- ・学習主体である中学生には、ジャム作りも含め様々な交流授業に参加してもらえたことが最大の成果となった。残念ながらサミット参加者が目標を下回った。

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	ながの高校生バンドコンテスト
事業主体 (連絡先)	長野市 (文化スポーツ振興部文化芸術課 224-7504)
事業区分	(3) 教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,303,505 円 (支援金: 906,000 円)

事業内容

高校生のバンド活動の推進とエネルギッシュな演奏を市民に披露することで、市民の文化芸術の振興を図る。

- 日時: 令和6年3月14日 (木)
- 会場: 長野市芸術館アクトスペース
- 内容: 高校生軽音楽バンドによるコンテスト
- 審査: 音楽教諭、プロ・アマバンドなど審査員5名による審査。審査基準は総文祭に準ずる。
- 表彰: グランプリ: アクトスペース1日貸切、バンド練習室10時間券、準グランプリ・3位: バンド練習室10時間券

【目標・ねらい】

- ① 市内の高校生軽音楽バンドの活動推進
- ② 文化芸術の振興
- ③ 地域の活性化



コンテスト

事業効果

- ◆参加グループ 14組7校、65名
- ◆来場者 182名 (前年比 +17名)
- ◆高校生バンド活動の推進につながった
- ◆高校生の文化芸術活動の推進につながった
- ◆グランプリグループによるバンドイベントを開催した
- ◆芸術館バンド練習室の利用向上につながった



会場の様子

今後の取り組み

過去最多の15組の応募があり、今後も高校バンドが目指すコンテストとなるよう継続して開催する。今後はバンドクリニックを開催し、高校生の技術力向上を目指すと共にバンド初心者参加によりバンドに関わる人口を増加させる。

※自己評価【A】

【理由】

今年度から新たに高校生の写真・華道の作品展を開催した。昨年以上に応募団体、新規参加校の出場があり、高校生軽音楽バンドの活動促進に繋がっており、今後の発展に期待できる。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	空き家でお試し移住×地域とのつながりづくり事業
事業主体 (連絡先)	長野市企画政策部移住推進課 (026-224-8851)
事業区分	(8)その他地域の元気を生み出す地域づくり (6)産業振興、雇用拡大 (オ その他)
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,939,300 円 (うち支援金 : 1,551,000 円)

事業内容

中山間地域の戸建ての空き家をお試し移住施設として通年利用できるよう整備するとともに、「お試し施設開設マニュアル」を作成する。

1. プロポーザルにより実施事業者を決定
(契約日 : 令和5年5月16日)
2. 長野市 HP において活用可能な空き家を募集
(令和5年5月18日～令和6年6月8日)
戸隠地区において、2件の利用申込があった。
3. 物件調査及び開設に向けた準備
(令和6年6月8日～令和6年8月31日)
所有者との契約、チラシ作成、地区への事業説明等
4. 入居者募集開始 (令和5年9月1日～)
5. 入居者の受入 (令和6年3月～)
6. 「お試し施設開設マニュアル」を作成
(～令和6年3月31日)

事業効果

- ① 移住相談等で案内するほか、事業者のネットワークを通じて幅広く案内することで、12組の応募と1組の入居に繋がった。
- ② 12組の応募者のうち11組が移住希望者であり、移住者を呼び込むツールとなっている。
- ③ 当初は1施設の開設予定であったが、物件調査の結果、2施設開設することができた。
- ④ 応募者の受入れについて、一連の流れが確認できたことでマニュアルを整備することができた。

今後の取り組み

今年度作成したマニュアルを活用し、市内4地域において空き家を活用したお試し施設の開設を目指す。施設及び地域を拡大することでノウハウを蓄積し、マニュアルのブラッシュアップを図っていく。

また、地域との繋がりづくりとして、住民自治協議会及び地域おこし協力隊等と連携し、定住の促進と地域の活性化を目指す。加えて、地域が主催する空き家見学会等を通じて他の空き家を入居者に紹介することで空き家の解消に取り組む。



【お試し移住施設】

【目標・ねらい】

- ① 関係人口の創出
- ② 移住者の増加
- ③ 空き家の利活用
- ④ マニュアルの活用

※自己評価【B】

【理由】

- ・想定よりも1施設多い2施設の開設
- ・7か月間の申込期間で、応募者数12組、入居者1組
- ・マニュアルの整備

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	「長沼コミュニティ構築」支援事業 ～信州ブレイブウォリアーズと連携し長沼地域のコミュニティ再生を～
事業主体 (連絡先)	NPO 法人長野スポーツコミュニティクラブ東北 長野市大町945番地
事業区分	(1)地域協働の推進 (8)その他地域の元気を生み出す地域づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,940,246 円 (うち支援金: 1,269,000 円)

事業内容

- ながめま三世代ポッチャ交流会
長沼住民や長沼住民関係者が長沼小学校体育館や地区公民館等に集まりポッチャ交流会を4回実施。
R5.6/18(日) 赤沼公民館 18人・R5.7/1(土) 長沼小学校 50人
R5.9/22(金) 長野市農林館 15人・R6.1.16(火) 津野集会所 14人
- 長沼交流スポーツ大会
住自協や小学校と協働し、長沼住民と小学生が関わりながら実施。4種目のニュースポーツを楽しんだ。
R5.9/24(日) 長沼体育館で実施。65人
- バスケットボール遊び楽しむぞオブジェクト
(1)長沼体育館を使用し、ウォリアーズの協力を得ながらバスケットボール遊び交流を3回実施。
第1回目 R5.6/15(木) 三ツ井利也 選手
第2回目 R5.10/24(火) 生原 秀将 選手
第3回目 R5.12/8(金) 生原 秀将 選手
(2)長沼小学校児童を対象にR5.5月からR6年2月の間、毎木曜日16時～17時に長沼小学校体育館で、バスケットボール遊びを提供。
毎回20人程度参加。
- バスケット魅力発信事業
長沼ミニバス、スポコミ東北バスケットクラブを中心に信州ブレイブウォリアーズ関係者によるクリニックを開催。
R6.2/3(土) 長野県障がい福祉センター体育館 45人
講師:ギルバート・トンクさん、池内侑里さん
(信州ブレイブウォリアーズU15 コーチ)
- 信州ブレイブウォリアーズブースター事業
(1)チューリップ球根植え
長沼小学校で各学年ごと、信州ブレイブウォリアーズのチームカラーをイメージしたチューリップ球根を11月に植えた。
(2)試合観戦5回企画。応援横断幕・応援用小旗等を作成し、応援体制の充実を図った。
令和5年 10月28日(土) 対茨城ロボッツ 62名
令和5年 10月28日(土) 対仙台89ERS 39名
令和5年 11月24日(土) 対富山グラウジーズ 59名
令和5年 12月29日(金) 対宇都宮ブレックス 40名
令和5年 12月30日(土) 対宇都宮ブレックス 42名
(3)ウォリアーズの情報を発信するための広報誌発行・HP作成
(4)信州ブレイブウォリアーズ三井順MC講演会の実施
R6.2/3(土) 13:30 長野県障がい福祉センターホール 50人
(5)パブリックビューイングの開催。
R6.2/3(土) 15:00 長野県障がい福祉センターホール 50人



事業効果

- 1 ながぬま三世代ボッチャ交流会
集会等に積極的にボッチャで交流を図ろうとすることが多くなり、住自協もボッチャを6セット購入し、住民に貸し出しをするようになった。
- 2 長沼交流スポーツ大会
大人と子どもが一緒になってニュースポーツを楽しむ姿が見られた。今年度は住自協が運営に強く関わり、自分たちでコミュニティを作ろうとする意識が高まったと感じている。
- 3 バスケットボール遊び楽しむぞプロジェクト
(1) ウォリアーズ選手との交流
ウォリアーズ選手の協力を得ながら、意図的で計画的なバスケットボール遊びの機会を子どもたちに提供でき、子どもたちは大変意欲的にバスケットボールを楽しんでいた。
- (2) 毎週木曜日のバスケットボール遊び
毎週木曜日の放課後の時間を使って、子どもたちが様々なバスケットボール遊びを楽しむことができた。年間を通した活動で子どもたちも楽しみにしていた。
- 4 バスケ魅力発信事業
ウォリアーズ U15 のコーチから、バスケットボールを楽しく練習することの大切さを教えてもらうことができ、子どもたちのバスケット熱がさらに高まった。
- 5 信州ブレイブウォリアーズブースター事業
(1) チューリップ球根植え
長沼小学校児童が学年花壇にウォリアーズカラーのチューリップを植えることで、ウォリアーズを応援する気持ちが高まった。
- (2) 試合観戦
観戦ブースターの目標人数 50 人としたが、平均すると 49 人であり、ほぼ達成できた。住自協が参加者募集の声掛けをするなど継続性と発展性を感じることができた。
- (3) 広報誌発行・HP 作成
ブースター事業の様子を広報誌を作成し、試合観戦参加者に配布した。
- (4) 信州ブレイブウォリアーズ三井順 MC 講演会
ウォリアーズが歩んできた歴史やプロバスケットボールチームの MC に就くまでの自身の経緯に触れ、目標に向かう心構えを聞き、中学生にとって大変刺激となる講演であった。
- (5) パブリックビューイング
開催期日の関係で、十分な周知ができなかったため、目標人数の半分程度 (50 人) となってしまったが、三井 MC の解説もあり、応援小旗を振りながら大いに盛り上がった。

【目標・ねらい】

- 1 ボッチャを通して、家族間や地域間のコミュニティ形成を図る。
- 2 長沼関係者と小学生とが一緒に関わりながらニュースポーツを楽しむ。
- 3 バスケットボール遊びやブレイブウォリアーズ選手との交流を通して、子どもたちを元気にし、長沼のコミュニティの活性化につなげる。
- 4 子どもたちがバスケットボールに情熱を傾けることで、長沼地域のコミュニティにつなげる。
- 5 試合観戦やパブリックビューイング、講演会等を通して、長沼住民の一体感を高め、信州ブレイブウォリアーズのブースターを増やす。

※自己評価【 B 】

【理由】

- ・「コミュニティ構築を長沼住民が自身で行う」姿が、5 つの事業を通じて、少しずつ醸成されつつある。
- ・各事業の周知は、チラシ等を中心に行ったが、開催時期を調整する中で配布が遅れ、十分な効果がなく、目標人数が達成できなかった事業があった。周知の方法に改善の余地がある。
- ・ウォリアーズとの協働という点で、綿密な協議をし、で調整がむずかしい面があり、思うように事業が進まなかった。しかし、ウォリアーズと復興支援という同じ目標を持ち、長沼地域の元気づくりに寄与できた。

今後の取り組み

今年度の事業を通して、スポコミ東北が長沼を元気にしたいという思いで、スポーツ、バスケットボールを通してコミュニティ構築を図ろうとする手段は、間違っていないと確信している。今後、さらにこの事業がコミュニティ構築に有効になるよう、また「支援」から「自分たちで」というように、運営主体をスポコミ東北から長沼住民へと変換していくこと必要と考える。そのために、事業の内容について、もっと楽しむために、地域のコミュニティを高めるためにどうしたらよいか、住自協・ウォリアーズと十分に協議していきたい。具体的には、「各事業をより魅力的な企画にする」、「参加者数を増やす」、「住自協が主体となる事業にしていく」の3点を今後の取り組みの重点としたい。

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	若者と農業の関係構築による持続的な地域循環の創出
事業主体 (連絡先)	特定非営利活動法人シナノソイル
事業区分	(6)産業振興、雇用拡大 (イ 農業の振興と農山村づくり)
事業タイプ	ソフト事業
総事業費	599,848 円 (うち支援金: 479,000 円)

事業内容

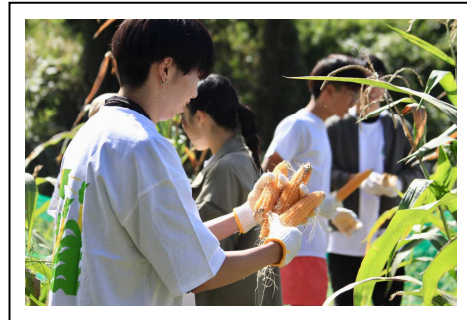
全国をはじめ、長野県でも課題となっている、「後継者不足」、「遊休荒廃地活用」をポップコーンの栽培等を通し、気軽に参加できる農業を目指して、上記の課題に関心を持ってもらえるようにするため、若者と農業を繋ぐ「シーソーマーケット」や、「遊休荒廃地でのポップコーン栽培」などを実施し、「農業」や「食」へ関心を持ってもらい、農業関係人口を増やしていく。

・シーソーマーケットの開催

令和5年3月、5月3日・4日、7月22日・23日
8月5日、9月16日、10月14日・15日

・ポップコーンの栽培～収穫～販売

収穫祭: 令和5年10月6日須坂市圃場にて



【収穫祭】

【目標・ねらい】

- ①シーソーマーケットへの参加者の増加
- ②ポップコーンの栽培面積の増加
- ③ポップコーン収穫量の増加
- ④ポップコーン収穫祭の参加者増加

事業効果

①シーソーマーケットを通じ、学生の皆さんに地域の農作物や農業について知ってもらい興味を持ってもらうことができた。
②③遊休荒廃地の活用として始めたポップコーン栽培に興味を持ってもらい、栽培協力農家が増え、収穫量も増やすことができた。

④ポップコーン収穫祭では、県内外の学生や地元の幼稚園児やヤギが参加する等、幅広い交流ができ、ポップコーンについて興味を持ってもらえた。特に「家でも栽培できるのか」「もぎ作業楽しい!」と、気軽に農作業に興味を持ってもらえた。他の地域でも来年度は栽培したいとの事で、更に栽培面積は増えていきそうなので、これからの発展が楽しみです。

今後の取り組み

新たに栽培を始めてくださる「協力栽培者」の皆さんをサポートしつつ、今年度の課題を踏まえて「直営圃場（長野市、須坂市）」での栽培の増加をさせ、遊休荒廃地の活用につけていきたい。また、収穫量の増加に向けて販路を拡大させるため、PR活動や商談を行っていく。シーソーマーケットでは、販売については毎回来てくれるお客様たちがついてくれ始めたので、より体験が出来る方法や、安定的な取引を農家さんと出来るようにしていきたい。

※自己評価【A】

【理由】

- ・シーソーマーケット運営参加者 1.2 倍増
- ・ポップコーンの栽培面積が前年の 7.5 倍増加
- ・ポップコーンの収穫量が前年の 14 倍増加

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

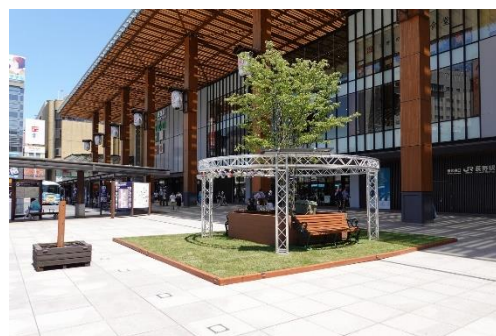
令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	ゼロカーボン長野プログラム 2023
事業主体 (連絡先)	特定非営利活動法人CO2バンク推進機構 (長野市稲里町中央三丁目33番23号)
事業区分	(5)環境保全、景観形成
事業タイプ	(1)地域協働の推進
総事業費	5,066,325円 (うち支援金: 4,053,000円)

事業内容

ゼロカーボン社会の構築および地球温暖化防止活動の普及啓発のため、2つのプログラムを実施。

- ①グリーンインフラ体験活動 (7/1~8/31 の62日間)
 - ・長野駅善光寺口駅前広場で緑化スペースを設置
 - ・自然エネルギー利用によるゼロカーボンのシンボル
 - ・盛夏の駅前広場における快適環境の体験空間
- ②グリーンインフラ普及啓発活動
 - ・ゼロカーボンとグリーンインフラに関する2つの動画を制作
 - ・環境イベントにてゼロカーボンとグリーンインフラの普及啓発活動に利用 (動画とパネルによる)
 - ・Webでの配信による普及啓発活動の拡大



【グリーンインフラ体験コーナーの様子】

【目標・ねらい】

- ①関係団体等の連携
- ②ゼロカーボンの普及啓発
- ③新たなムーブメントの醸成
- ④一人一人が実践できる活動提案

事業効果

- ①盛夏の2カ月間にわたり、長野駅前広場で緑化スペースを提供することで、駅利用者、来訪者にグリーンインフラを知ってもらう機会となった。緑陰やシェードなどで快適環境の空間を提供し、体験してもらった。
 - ・利用者 6,130 人 (ベンチ利用者)
- ②ゼロカーボンとグリーンインフラに関する動画やパネルにより普及啓発活動を実施した。
 - ・イベントへの参加者 133 人
 - ・動画による効果 310 人
- ③連携事業 (自主事業)
 - 「緑と花のフェスティバル」 1,204 人 (クイズ参加者)

※自己評価【A】

【理由】

- ・体験型とオンライン型を併用し、過年度成果を活用しながら波及効果を高めた。
- ・幅広い市民層から関心の高い層まで、7,777 人の参加者を得た。

今後の取り組み

ゼロカーボン社会の構築および地球温暖化防止活動の普及啓発のため、駅前広場や公園といった不特定多数の市民への訴求を行ったり、過年度の成果や動画などを活用した多様な手法による普及啓発活動が実施できた。

これまでに、都市緑化、リサイクル、省エネ・再エネのテーマごとプログラムの活動成果や、体験やオンライン配信などの手法を活用し、持続的な普及啓発活動へと発展させていく。

また、所期の目的であった行政機関や関係団体、企業、市民有志などさまざまな主体との連携の機会が継続的に実現でき、今後もこうしたネットワークのプラットフォームの役割を継続していきたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	信州くだもの歴史のまち 川中島平ウォーク2023
事業主体	特定非営利活動法人MHOKエムホック
(連絡先)	長野市稲里町下氷鉦1069番地3
事業区分	教育、文化の振興
事業タイプ	ソフト
総事業費	472,731円（うち支援金：301,000円）

事業内容

信州くだもの歴史のまち 川中島平ウォーク2023を3回開催。参加費；一般1,500円、中学生と75歳以上500円、小学生以下無料。

①「祈りの道 戸隠古道をウォーキング」6月3日（土）戸隠「宝光社西側広場」を8:30出発、14:30帰着。宝光社・火之御子社・中社・小鳥ヶ池・鏡池・随神門・奥社の約10Km 参加者50名の他スタッフ13名。

②「丹波嶋宿コース」4Kmと健脚向け「古戦場ロングコース」12Kmの2コース。11月4日（日）稲里町「下氷鉦第一公園」を8:30出発。丹波嶋宿コースは 丹波島青波公園・丹波嶋宿入口 石碑・旧本陣・旧問屋・高札場・丹生寺・於佐加神社等をめぐり、10名参加。古戦場ロングコースは氷鉦斗賣神社・幕張の杉・境福寺・昌龍寺・狐丸塚川中島古戦場史跡公園（長野市博物館）・明桂寺・善導寺をめぐり最終14:30帰着。参加者39名。2コースの合計参加者49名、スタッフ16名。

③「真島史跡めぐり」3月17日（日）真島町「ホワイtring西駐車場」を起点とし9:00出発。清水神社・信州りんご発祥の地記念モニュメント・川合神社・アケパル千曲・前沢排水機場・関崎橋周辺・善法寺・榮昌寺・源八桑・最明寺・尊良寺・義民丸山覚之丞祠の6Kmをめぐり12:40帰着。参加者45名、スタッフ13名。



【解説を聞く 真島史跡めぐり】

【目標・ねらい】

- ①子どもたちから高齢者まで、体力づくりや健康増進に向けたウォーキングの普及。
- ②地元の歴史や文化にふれ、楽しみながら探索することで、将来子どもたちに定住、活躍できる故郷愛を育んでいきたい。
- ③大会の規模、エリアの計画的拡大を図り、全県的な活動と長野県を健康長寿日本一となることを目指したい。

事業効果

① 事業開始4年め コロナ禍の安定過度期のなか、熱中症予報のため一回を中止し、今年度は3回の実施。参加人員合計では144名と未達でしたが、各アンケート結果より川中島平における史跡をめぐる特色あるウォーキングの体験に、「満足した」71%「やや満足した」26%「今後も参加したい」77%「身近な史跡が説明も有り観れて良かった、次回も楽しみ」と多くの方から感動の言葉をいただきました。

② 秋の戦国ロマンをめぐる古戦場史跡公園では、長野市博物館学芸員による川中島合戦のドラマとは違う発見秘話を交えた展示物の解説は多くの参加者より好評を得ました。

③ 支援金は計画的な大会規模拡大を図るため主に大会運営機材の導入に当て、本年度は本部会場用折り畳みテーブル及びチェックポイント用機・イス・パラソル傘等を調達しました。120名規模までの基本アイテムが整備されました。

※自己評価 【 A 】

【理由】

- ・リピーターの多さより、歩く、合わせて史跡をめぐるの、家族や仲間との健康増進と交流に向けてのイベントとして楽しめて頂け、その定着性も感じられました。10回の開催に7回参加のリピーターが7名おり、内2名が活動会員となりました。
- ・参加規模の当初目標は今年200名であったが、秋大会ではコロナ禍後の余暇目的選択として温泉やスポーツ観戦等が選ばれた状況もあり144名と未達となりました。

今後の取り組み

コロナ禍も落ち着きに向かっていますが、情報を監視しながら安心、安全な計画や運営とします。アンケート結果より、健脚向けロングコースではその多様で貴重な情報をうまく組み込むよう改善を図って参ります。多くの皆様楽しんで参加いただけるようアイデアを凝らし、また地元以外の県内外の皆様にも長野の川中島平をアピールできるよう普及の拡大に努めます。

(長野地域)

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	能楽の普及振興と芸術文化の向上
事業主体 (連絡先)	長野県能楽連盟 長野市篠ノ井塩崎5315 会長 近藤 豊 026-2929-6575
事業区分	(3)教育、文化・スポーツの振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	5,844,389 円 (うち支援金: 1,610,000 円)

事業内容

長野県には650年も続く日本が誇る伝統芸能「能楽」を楽しむ風土がある。能楽を支える愛好家や支援団体が平成4年に長野県能楽連盟を結成し、以降「長野能」を毎年主催公演して来た。又、長野県・長野市・関係団体が推進する能楽大会・発表会へも積極的に参加し、愛好家の増員・育成や斯道向上の為、積極的に活動している。

- ① 長野能：プロの能楽師による公演・・・30年継続中
- ② 長野県主催の芸術祭及びフェスティバル：毎年参加・出演
- ③ 長野市主催の文化芸術祭：毎年参加・出演
- ④ その他の大会：より多勢で積極的に参加・出演
- ⑤ 能楽教室：小学校5・6年対象で希望校へ出張講義



【大看板 と 能楽師の連吟】

【目標・ねらい】

- ① 長野能公演の継続
- ② 能楽愛好家の増員
- ③ 能楽愛好家の技量向上と和合
- ④ 伝統芸能の維持・存続

事業効果

- ① 今回の第30回長野能において「字幕サービス」を活用した事により、判り難いと言われる「能番組のストーリーや言葉の解釈等」が容易に理解出来、来客者の満足度向上に大きく貢献した。
- ② コロナ感染期間中における公演実施は赤字を生み、運転資金が枯渇し、各種の活動が困難になったが、今回の支援金充当で、長野能公演の継続開催は一時的には可能となるが、延命課題は依然として残る。
- ③ 長野能公演の継続により、師範の出演参加機会が増える為、技量の向上が期待出来ると共に、愛好家の抱え込みや増員にも寄与している。

※自己評価【A】

【理由】「字幕サービスの活用」
・謡本の詞章とその意味が容易に理解出来、能楽の面白さが倍加
・無料貸出タブレット50台と無制限人員数へのスマホサービスにより、老若男女が多いに楽しめた。

今後の取り組み

- ① 今回の支援金を活用する事で、次回第31回長野能がより強固に実行可能となる。
よって、新たな取組として将来の愛好家を増員・育成すべく、第31回長野能の前段（午前中）に、「小学校高学年への能楽体験」コーナーを実施する。
- ② 善光寺のネームバリューを借りてコラボレーションし、長野能に近い内容の「薪能的な長野能公演」を計画したい・・・次年度の「元気づくり支援金」活用を申請する。
- ③ 将来の愛好家要請の為の、「能楽教室」の充実と拡大・継続を図りたい。
・充実とは：指導内容（メニュー）を広く・深く見直すと共に解り易くする。
・拡大とは：長野市の実施小学校数を増やす事と近隣の小学校へも実施範囲を拡大する。
・継続とは：年間の実施期間（月数）延長と今後も毎年実施継続する体制を構築する。

令和 5 年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	ベトナム人(外国人)が信濃に溶け込む”やさしなの事業”PART		
事業主体 (連絡先)	長野県ベトナム交流協会 長野市南県町 688-2 連合婦人会館 2F		
事業区分	(3)教育、文化の振興に関する事業 (4)安全・安心な地域づくりに関する事業		
事業タイプ	ソフト		
総事業費	664,497	円 (うち支援金: 531,000	円)

事業内容

前年度に引き続き利便性の良い篠ノ井駅前の会場で月2回(第1・3日曜日)午前10時～12時迄日本語教室を行った。今年度は2年目ということで、教室内活動のみでなく、地元篠ノ井自治協議会を始め各団体の皆様方の協力の元、教室の外に出て地域住民の方と触れ合う機会を設けた。篠ノ井駅周辺歴史散策(2回)・防災教室(2回この内1回は地元2団体による朗読劇)・リンゴ狩・ベトナム料理教室を行い、地域のみなさんと外国籍のみなさんが交流を行った。また近隣川中島からはハーモニカボランティア等市内各地からボランティアが参加し、子供～大人まで皆で楽しむだけでなく、相談事も観望で解決する”拠り所”としての教室となった。

事業効果

外国人と触れ合う機会が無かった地域住民の方々が、初めはどうしたら良いのかと戸惑いを感じながらも、交流後は”楽しかった!” ”話を直接聞けて良かった” ”今度是非一緒に活動したい!” など皆さんの意識に変化があったことが大きな成果です。戸惑う原因の一番はやはり「言葉の壁」だが、例えば相手の国(ベトナム語)で挨拶をしたり、日本語の説明をわかりやすく楽しくしたりと、相手に寄り添うことで、気持ちが通じ壁を越えられることを実感してもらえたことが一番です。

今後の取り組み

引き続き外国籍の方々には”拠り所”として、また地域住民の方々との懸け橋として日本語教室を行う予定である。

1人でも多くの地域住民の方が外国籍住民と直接触れ合い、困った時は助け合えるような意識改革に繋げるようにしていきたい。

(活動写真)



【 歴史散策の様子 】

【目標・ねらい】

- ① 地域住民との交流
- ② 外国籍子供達への支援
- ③ 篠ノ井の認知度 UP
- ④ 安らぎの場所作り

※自己評価 【 A 】

【理由】

外国籍参加人数は前年度と大きく変わらなかったが、地域住民の方々と交流機会を様々な面で設けたことにより、受け入れる側(日本人)の意識に変化をもたらしたことは大きな成果であった。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	信州の建物を木造化・木質化することで2050ゼロカーボンを実現する展示会
事業主体 (連絡先)	信州・絆でつくる優良住宅の会
事業区分	6 産業振興・雇用拡大に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	36,169,504 円 (うち支援金: 5,000,000 円)

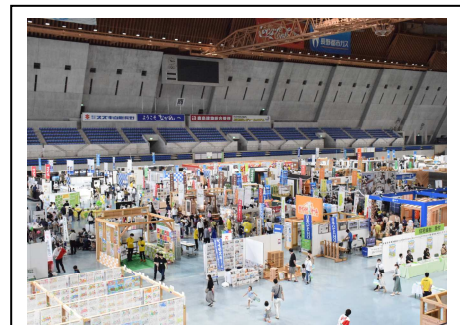
事業内容

(供給側対象) WBS

令和5年6月16日 建築士、施工者、建築主を対象に
建築工学、設計士、建築家等斯界の碩学9組(13名)により建築物
の木造、木質化への最新の知見の講演を実施。
並びに実物大モデルの展示を実施。

(一般ユーザー) わくわくフェア

木材、木質材料及び建材、設備品メーカー多数の高性能機器紹介
とともに、高耐久、省エネの高い建築物が脱炭素の推進に資する
ことをわかりやすく広報。



【 】

【目標・ねらい】

- ① 2050 ゼロカーボンへの取り組み
- ② 長野県産材の利用促進
- ③ ZEH、高耐震、減災まちづくり推進
- ④ 建築物木材利用促進 (県産材利用)

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- 1) (集客) WBSには参加者790人、受講者延1300人、わくわくフェア約12000人と多数のご来場をいただき盛況となった。
- 2) (供給側) 従来困難と思われていた規模の建築物を木造化、木質化が従来の技能で可能との理解が進み、いくつかの相談案件があった。
- 3) (ユーザー側) 脱炭素への取り組みが省エネで経済性にメリットがあり、快適で、健康リスクの低減にもつながることの視点からZEHゼロエネ住宅、高耐震住宅を啓蒙できた。また地域の気候風土をよく知った地域の優良事業者の紹介の機会ともなった。

※自己評価 【 B 】

【理由】

WBSは初回から関心の高さがあり、成果事例につなげたい。
リフォーム分野への対応強化が必要

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

引き続き建築物の木造化促進、ZEH住宅の促進、高耐震化、を通して減災まちづくりに貢献。
さらに今後は既存住宅の省エネ改修、耐震化改修の推進にも力を入れて、地域の建築事業者の
活性化につなげることに取り組む。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	信州新町地区新たな魅力創出事業
事業主体 (連絡先)	パワーアップ信州新町実行委員会 長野市信州新町新町 1000-1
事業区分	(6)産業振興、雇用拡大 (ア 特色ある観光地づくり)
事業タイプ	ソフト
総事業費	2,606,292 円 (うち支援金: 2,014,000 円)

事業内容

信州新町地区は、昭和13年に県天然記念物であるシンシュウセミクジラが発掘されるなど化石の長い歴史があり、平成5年には信州新町化石博物館が開館した。

そこで、化石の街として内外に発信し、新たな観光資源を創出するためイベントを開催

【日程】令和5年9月15日(金)～18日(月)

【内容】・恐竜登場イベント

- ・ティラノサウルスレース
- ・地区内周遊スタンプラリー
- ・灯籠ウォーク
- ・長野駅善光寺口PRイベント
- ・ワークショップ(化石発掘体験など)
- ・ナイトミュージアム
- ・絵画コンクール



【恐竜登場イベント】

【目標・ねらい】

- ① 新たな観光資源の創出
- ② 観光交流人口の増加
- ③ 地域全体の魅力発信

事業効果

- ① 恐竜コンテンツを活かし、化石や化石博物館をPRすることで、新たな観光資源としての可能性を示せた。
- ② イベント期間中の来訪者は、4,311人(博物館3,711人、ティラノサウルスレース約600人)となり、博物館来館者目標値800人を大きく上回る結果となった。また、イベント集客目標値2,000人も大きく上回り、観光交流人口の増に寄与する結果となった。
- ③ デジタルスタンプラリーの画面閲覧者は1,738人、参加者は191人、スポット訪問者数は427人となり、目標の600名には届かなかったが、情報閲覧者は、1,738人と効果はあった。また、山間部のポイントへの来訪者もあり魅力発信に効果があった。

※自己評価【A】

【理由】

- ・来館者数は、目的値10%増に対し、実績値40%増
- ・観光客入込数は、目標値10%増に対し、実績値17%増
- ・屋形船周遊は中止となったが、イベント全体としては成功だった。

今後の取り組み

イベントは、大勢の来訪者があり目標を達成し、メディアにも数多く取り上げられ、信州新町地区のPRができた。今後は、継続的に開催することで、更に化石や化石博物館の魅力を定着させていく効果的なイベントを計画していく。

ティラノサウルスレースでは、アンケート結果にもあった競技種目の増や特産品の販売など信州新町の魅力を発信していく。また、スタンプラリーは、参加しやすい環境を整え、地区の様々な場所へ誘導できるように工夫する。地区内からは、スタッフとして参加したいとの声もあることから広くスタッフを募集し地域全体で取組む機運を醸成していく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

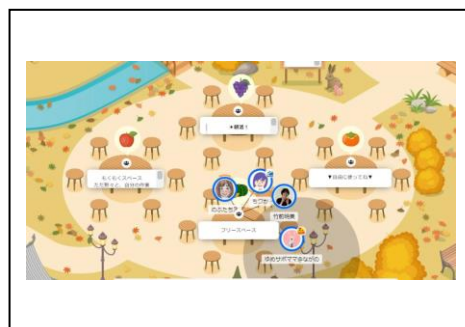
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	ママの交流「オンライン子育て広場」(メタバース活用) 事業
事業主体 (連絡先)	ゆめサポママ@ながの 080-1142-7840 (事務局 小宮山聖美)
事業区分	(2) 保健・医療・福祉の充実
事業タイプ	ソフト
総事業費	2,431,118 円 (うち支援金: 1,539,000 円)

事業内容

- メタバース施設の作成
- メタバース子育て広場、オンライン子育てサロンの広報活動
 - ・チラシ配布
 - ・パンフレット配布
 - ・オンラインでの広報活動 (HP、Facebook ページ (ゆめサポママ@ながの、ままのてつなご@信州、各グループ等) インスタグラムでの告知、LINE 配信、Facebook 広告掲載など)
 - ・オンライン子育てサロン内でのメタバース体験会
 - ・「ママまつり」への出展 (11 月)



【イベントにて会話の様子】

【目標・ねらい】

- ① 会員登録数 500 人
- ② メタバース利用人数のべ 500 人
- ③ メタバースの認知と県内の母親への啓発

事業効果

- ① 登録までにたくさんのサポートを必要とするが、それでも会員登録数 100 人を達成することができた
- ② 5 カ月で延べ 300 人程度のメタバースの利用があった。有志の自主開催のイベントなども行われるようになった。(例) 朝活 (平日 5:30~5:40)、確定申告もくもく会、お仕事もくもく会など
- ③ 母親同士の交流が生まれ、長野市、飯田市、さいたま市など様々な地域から、メタバースを活用いただき、顔がわからないけれど、お互いのお名前を覚え話しコミュニケーションがきるようになっていた。

※自己評価 【 B 】

【理由】

- ・会員登録が 100 名
- ・メタバース利用人数のべ 300 人
- ・メタバースを積極的に活用し、毎日訪れてくれる人が出てきた
- ・

今後の取り組み

引き続き、悪天候の日や感染症が流行しているときに外に出るのを躊躇する母親や、あるいは過疎地域に住んでいる母親などが孤独な子育てとならないよう子育てにおけるオンライン子育てサロンとメタバース子育て広場の活用の認知を広げる活動を続ける。

今年は安全性を求めるあまり、不審者の判別のため私たちでもお名前をいただくとした結果、登録を 2 回しなくてはいけなくなり、手間がかかる分、入りたいと思える気軽さにかけた。そのため、来年は、もっと簡単に入れるように仕組みを整えていく。

また、入ってみたいと思えるような定期イベントなどを企画して、メタバースを活用することのハードルを下げていきたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	全区民参加の災害に強い地区づくり事業		
事業主体 (連絡先)	飯綱東区自治会 (区長：中澤 美智男 026-239-2799)		
事業区分	安心・安心な地域づくり、保健・医療・福祉の充実		
事業タイプ	ソフト		
総事業費	490.018 円	(うち支援金：)	381.000 円)

事業内容

1 防災マップづくり

(1) まち歩きイベント・防災の目線で歩き危険箇所や防災活動に役立つ資源を白地図に情報を整理する。

(2) 災害図上訓練 DIG の実施 ・地図上で災害を想定し、避難経路・誘導方法の確認、安否確認等の連絡体制などを考える。

2 そなえサロンの開催

高齢者、こども、女性を対象に、顔の見える関係をつくり、防災の講習を通じ知識と備えを促す。

3 避難行動要支援者へのデジタル支援の実証実験

高齢者の情報格差を解消する為、タブレットを貸し出し、使用できるよう教える。緊急連絡に役立てる。



【 災害図上訓練の様子 】

【 目標・ねらい 】

- ① 災害に強い地区づくり
- ② 区民の防災意識の向上
- ③ 逃げ遅れゼロ・避難生活の安心
- ④ デジタル弱者の解消

事業効果

1 防災マップづくり

念願であったマップ作りとそれに沿ったマイタイムライン作りができた。

2 そなえサロンの開催

高齢者、こども、女性など参加住民の意識が高まりつつある。

3 避難行動要支援者へのデジタル支援の実証実験

情報弱者(高齢者)へタブレットの貸出しと講習を行い3名の方が使えるようになった。

※自己評価 【 B 】

【理由】1の「防災マップづくり」と2の「そなえサロンの開催」は概ね計画通り行えましたが、3の「デジタル支援」では担当者の不調を周りの者がカバーしきれず、計画を縮小した実施となりました。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

次年度は3か年活動計画の3年目の為、そなえサロンやタブレット講習など継続すべき事業は継続した上、防災訓練(安否確認訓練・災害対策本部立ち上げ訓練等)と実際の避難所体験を行い、より実践的な活動で防災意識の向上と備品の準備を図り、災害に強い地区づくりを行います。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和 5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	医療的ケアが必要な患者への災害対策
事業主体 (連絡先)	日本ALS協会長野県支部. 長野市上野 1-680-2
事業区分	(2) 保健、医療、福祉の充実 (4)安全・安心な地域づくり
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	496,198 円 (うち支援金: 384,000 円)

事業内容

<医療的ケアを必要とする患者の災害対策研修会>

場所: 千曲市総合観光会館

日程: 令和5年6月25日(日) 13時~16時

規模: 参加計 68 名 内容: 災害対策の取り組みについての講演と交流会

<非常用電源・機器を用いた停電を想定した在宅避難の体験会>

日程: 9月17日(日) 13時~15時

規模: モデルとなる人工呼吸器装着者宅(小林さゆり宅)にて総勢 20 名
非常用電源・機器を活用し停電を想定した在宅避難体験会として行う。

*その体験会を支部だより№37や11月19日の交流会で報告・紹介し、
防災・避難訓練を行う重要性を継承し、災害対策に生かしていく。

*購入した非常用電源・機器は支部事務局で保管し定期的にメンテナンスを行い、お試し利用、非常時や避難訓練時に会員に貸し出す。

事業効果

*研修会では現地参加 50 名、オンライン参加 18 名、計 68 名に医療的
ケアが必要な患者への災害対策の研修を行い、その重要性を学び、取
り組むきっかけとなった。

*非常用電源、機器を用いた停電を想定した在宅避難の体験会にはモデ
ルとなる人工呼吸器装着者の関係者 18 名が参加した。また、令和 5
年 11 月 19 日の秋の交流会では現地 63 名、オンライン 30 名、計 93
名に体験会の報告や紹介ができた。また、支部だより№37 災害対策特
別号を令和 6 年 1 月に発行し会員・会員以外(医療関係者・保健所・
新規の患者等)を含め 100 名以上に体験会の取り組みや中部電力パワ
ーグリッドの停電時の対応、災害伝言ダイヤルの活用、非常用電源等
支援金を活用した機器の貸与について紹介・周知した。

今後の取り組み

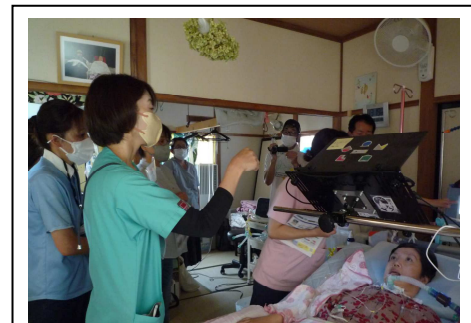
今回の取り組みをきっかけにして、今後も継続的に医療的ケアが必要な患者の災害対策に取り組んでいく。

- ① 個々の自助・共助を強化するため、在宅避難や避難場所への訓練を実際に行ったり、非常用電源・機器・備品を準備しておく。
- ② 個別避難計画作成にあたっては、行政や支援関係者と共に実効性のあるものに作り上げ、又定期的に見直しを行っていく。
- ③ 支部の備品(非常用電源、呼吸器用バッテリー、バッテリー付き吸引器)の貸し出しを行っていく。
- ④ モデル体験会を YouTube 動画として発信し、参考にさせていただく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【R5 年 9/17 在宅避難モデル体験会

【目標・ねらい】

- ① 災害対策に取り組むきっかけとする
- ② 非常用電源・機器の必要性を確認
- ③ 当事者、支援者に広く周知し、学んでもらう

※自己評価 【A】

【理由】

- ① 実際に避難訓練に取り組みたいと保健所から問い合わせがあった。
- ② 非常用電源を貸し出し、購入(備え)に繋がった事例がある。
- ③ 神経難病疾患関係者の研修会でも先駆的な取り組みとして紹介した。

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	Re:collection NAGANO (リコレクションナガノ)
事業主体 (連絡先)	Re:collectionNAGANO 実行委員会 (事務局所在地・連絡先: 長野市岡田町 131-7 026-227-3668)
事業区分	(5)環境保全、景観形成
事業タイプ	ソフト
総事業費	6,982,000 円 (うち支援金: 4,962,000 円)

事業内容

2050 ゼロカーボン実現に向けて、衣料業界から「エシカル消費・エシカル利用」を推進することを目的とし、衣類の「リユース」・「リメイク」・「ロングユース」をテーマに、情報発信ならびに価値発信を行った。具体的には、上記テーマに即したファッションショーイベントの開催や、各テーマに合わせた動画制作・発信を行った。

★イベント開催内容

- ・開催日時: 2023年9月3日(土)13:00~16:00
- ・開催会場: 長野県民文化会館ホクト文化ホール
- ・開催内容: リメイク・リユース品ファッションショー
こども服のおさがり交換市 等

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①イベントには500名近くの来場者が見られ、衣類のリユース・リメイクへの興味関心の高さが伺えた。
- ②他の環境保全活動団体と連携することで、市民とのタッチポイントを増やすことが出来、本活動を知ってもらえるきっかけを数多く提供できた。
- ③イベント協力者であるリメイク・リユースのショップ各店(リメイク専門店会)も、イベント後の来店者が増加傾向にあり、事業をきっかけとした来店者も多い。世の中の潮流として、環境保全への関心が高いことから、今後も活動を広げる素地が整っている。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

2023年度事業は初年度ということもあり、情報発信に力点を置いており、イベントへの来場者数、その後のリメイク・リユース店舗への誘客増等一定の効果が得られた。

24年度事業実施に当たっては、情報認知を行動に繋げるような仕掛けを施して行く。

具体的には、リメイク品づくりイベントの開催や、SNS上での市民参加型のリメイクリユース投稿キャンペーン等を複数回実施していく。



【2023年9月3日イベントの様子】

【目標・ねらい】

- ① リメイク・リユース品への興味関心の向上。
- ② 衣類の廃棄サイクルを長期化
- ③ 消費における合理化の推進

※自己評価【B】

【理由】

活動初年度ながらも目的を共にするメンバーが多数集まり、イベント・情報発信が形になったことは大きな一歩になった。今後はより多くの市民を巻き込む仕組みを構築していく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	ソルガムコンソーシアム事業 (その3)
事業主体 (連絡先)	信州そるがむで地域を元気にする会 (長野市若里 4-17-1)
事業区分	(6)産業振興、雇用拡大 (イ 農業の振興と農山村づくり)
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,464,088 円 (うち支援金: 1,052,000 円)

事業内容

我々の事業は、ソルガムを軸としたカスケード型脱炭素社会の実現に向けて①事業認知度向上活動および「ソルガム」の6次産業化に向けた取組を実施した。

- (1). 農福検討／意見交換 (年6回)
- (2). 栽培講習会 (2回)
- (3). 1家庭1ソルガム運動 (事業外活動)
- (4). 地域と連携したソルガム料理教室 (2回)
- (4). 展示会出展
- (5). 成果報告会&そるがむマルシェの実施
延べ23万世帯への広告宣伝活動の実施
ソルガムを見て、食べて、購入する会の開催



【そるがむマルシェ会場の様子】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

①事業認知度向上

購買層(生産年齢人口)において、活動初年度と比較してソルガム認知度は33%向上し、ソルガムの食経験者は56%増加した。

②「ソルガム」の6次産業化

販売を行った出展者により昨年と比較して更に8品目以上のソルガム関連商品が自主開発された。展示・即売会では、1出展者あたり6時間で3.5万円以上の売り上げを実現。全出展者で推定今後継続して販売した場合、15事業者で5,250万円/年～10,500万円/年程度の売り上げ(経済効果)が見込まれる。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

ソルガムを軸としたカスケード型脱炭素社会の実現のため引き続き以下の事業を継続した。

- ①.成功モデルの拡充: 社会福祉事業所によるソルガム作付けと6次産業化は成功モデルとして伴走を継続実施する。
- ②.子実流通量の拡大: ソルガムの食経験→食習慣へ移行するため作付け面積の拡大とともに、販売強化活動を推進する。
- ③.事業認知度の向上: 栽培講習会、展示会、料理教室など地域と連携した活動は継続実施する。
- ④.茎葉流通と事業化: ソルガムの茎葉を用いた新たな流通網を構築し、販路と利用を実現する。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

【目標・ねらい】

- ①購買層(生産年齢人口)を中心とした事業認知度向上
- ②「ソルガム」の6次産業化を目指した商品開発とプレマーケ実施

※自己評価 【 A 】

【理由】「そるがむマルシェ」が昨年を上回る盛況ぶりを見せ「ソルガム」の認知度と社会受容性の高さや経済効果を示せた。県内他エリアや中央省庁からも声がけされ地域を超えて活動が認知されている。

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	草刈りバスターズ養成～担い手不足解消とつながり人口創出
事業主体 (連絡先)	芋井地区住民自治協議会 Tel-026-262-1578
事業区分	(1) 地域協働の推進、(2) 環境保全、景観形成
事業タイプ	ソフト
総事業費	2,002,465 円 (うち支援金: 1,558,000 円)

事業内容

中山間地に位置する当地域は、草刈りにおいても担い手不足が、年々深刻になりつつあります。

そこで、地域外の方に草刈りの体験を通じて草刈りを覚えて手伝って頂く、つながり人口の創出を目指しています。

必要な機材・教材を整備し、養成講座を開催してまずは体験して頂き、更に実践活動を通して経験を積んで、草刈りバスターズとして、地域の草刈りに協力して頂けるように進めています。



【草刈バスターズ養成講座】

【目標・ねらい】

- ① 草刈りバスターズ養成講座の開催
- ② 養成講座の教材整備
- ③ 活動の為に機材の整備
- ④ 草刈り実践活動を通じて経験の蓄積

事業効果

- ① 支援金を活用することで、草刈りバスターズが活動していくための機材を整えることができた。
- ② 草刈りバスターズを育成する養成講座の新たな教材整備としての動画を作ることが出来た。
- ③ 2回の養成講座の開催が出来た。
- ④ 4回の実践活動に参加頂いた方には草刈りの経験を積んで頂けただけでなく、今後も草刈りにご協力を頂けるという事で、つながり人口になって頂いた。
- ⑤ 主催者側の我々も開催のノウハウと経験が得られ、今後の活動の糧となりました

※自己評価【C】

【理由】

機材・教材の整備は計画通り100%達成できたが、バスターズ養成講座は参加者を計画通りに集められなかった。募集PRの仕方、日程計画の工夫が必要で有る。

今後の取り組み

- ・令和6年度3年目となる草刈りバスターズ養成講座は、ビギナーコースとエキスパートコースの2本立とし、エキスパートコースはより実践的な草刈り技量の習得を目指す内容として行く。
- ・草刈りバスターズのエキスパートTEAMを結成し、養成講座のエキスパートコースを修了した方と地元のベテラン経験者に加入登録して頂き、草刈りの担い手が手薄な地区の公道等の草刈りを支援して行く。初年度20名の登録をめざす。
- ・養成講座のビギナーコース終了の方には、公園等の草刈りで経験を積んで頂き、エキスパートコースを経て、エキスパートTEAMへの加入をお願いして行きたい。
- ・活動内容のPR等積極的に発信し、同様の取り組みをしたい他の地区にも機材の貸し出し等の協力をし、草刈りバスターズの輪を広げる取り組みも進めて行きたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和 年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	NAGANOミライ防災会議-みんなで考える新しい地域防災の取り組み-
事業主体 (連絡先)	Nagano IT Disaster prevention Association
事業区分	主となる区分(4)安全・安心な地域づくり 関連する区分(1)地域協働の推進
事業タイプ	ソフト
総事業費	823,482 円 (うち支援金: 652,000 円)

事業内容

① 長野市街地で多くの人に知ってもらふ防災イベントを開催

日常的に人が多く集う場所(公園)で、IT、IOT・ロボティクスを使った機器の操作を体験してもらう。日常的に人が集まりやすい公園は、災害直後、身を守る場所としては一番最適な場所であると考えられる。

② 企業敷地を一時避難所として活用する防災イベントを開催

災害が発生した場合、多くの場合、一次避難場所となる公民館・公園などにいき、身の安全を図ることになる。しかし、1次避難場所へ何らかの理由により行けない場合や、避難場所のキャパ不足など、民間の施設を一時的な利用として活用することも必要となってくる。本事業では、市街地の中にある企業が有事の際に企業の社屋や敷地を提供するとともに、その企業が持っている技術などで地元の方々を守っていく取り組みとなる。



【目標・ねらい】

- ⑤ 女性・若者の参加
- ⑥ 防災の意識への向上
- ⑦ 地域防災の新たな可能性
- ⑧ 企業による地域防災への参加

事業効果

① 女性・若者の参加

⇒女性・若者の参加者の割合が58%と当初の目標を上回ることが出来た

② 防災の意識への向上

⇒防災の意識向上が、イベント終了後には98%と当初の目標を上回ることが出来た

③ 地域防災の新たな可能性

⇒ITやアウトドアの視点から、防災に対していろいろな人が参加できる可能性が実感できた

④ 企業による地域防災への参加

⇒企業が地域に対して何を貢献出来るか、考えるきっかけとなった。

※自己評価【B】

【理由】

アンケート調査にて防災への意識が参加前よりも高くなり、イベントをおこなったことよっての一定の成果は出たと思う。その反面、小中学校への配布に力を入れたものの、参加人数の後押しになることが出来ず、残念であった。

今後の取り組み

参加された方からは、新しい防災の在り方について考えるきっかけとなったという声を多数いただきました。その反面、周知を頑張ったものの、参加者の人数が少なかったことが、非常に残念な部分であった。防災の取り組みはどうしてもネガティブなイメージがあるため、今後はさらに楽しさ、やりがい、新規性など、参加者の方がさらに増えるような取り組みにしていきたいと思っています。また、企業と地域との連携の必要さをさらに感じる事が出来たため、さまざまな場所で同じような企業と地域との地域防災を考えるイベントを企画していきたいと思っています。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	～専門学校×長野市連携事業～ 職業と学びのガイダンス 2023
事業主体 (連絡先)	長野県専修学校各種学校連合会北信支部 (長野県専修学校各種学校連合会 電話 026-235-3353)
事業区分	(6) 産業振興、雇用拡大 (3) 教育・文化の振興
事業タイプ	ソフト
総事業費	2,852,880 円 (うち支援金: 2,252,000 円)

事業内容

1. 会場開催

○期日・場所 10月20日(金)・ホテルメトロポリタン長野

○会員校12校出展

(岡学園トータルデザインアカデミー、豊野高等専修学校(専門課程)、長野美術専門学校、文化学園大学保育専門学校、長野理容美容専門学校、信越情報専門学校21ルネサンス学院、専門学校カレッジオブキャリア、専門学校長野自動車大学校、長野平青学園、信州スポーツ医療福祉専門学校、大原スポーツ公務員専門学校、大原簿記情報ビジネス医療専門学校)

○参加者 191人(高校生 173人)

○各ブースの延べ人数 288人(高1:258、高2:28、高3:2)

○募集方法等

- ・高校訪問や連絡会議を通してガイダンスを周知。
- ・専各連HPでも開催を周知し、申し込みフォーム作成。
- ・高校から会場までのバスを手配し、多数の高校生の参加を目指した。

○ガイダンスの内容

- ・卒業生や就職先等の企業関係者が職業理解の観点から業務内容、必要資格、技術を具体的に解説した。専門学校は設置学科が対応する職業について、能力の取得、習得に有益なカリキュラムや指導内容について説明した。

2. 各校開催

○期間 8月～11月

○ガイダンスの内容

- ・各校のオープンキャンパス等において、卒業生や就職先の企業関係者を招き、職業理解を深める説明を行った。

事業効果

- ① 予定を上回る多くの高校生(特に1年生)が参加してくれたことで、北信地域で将来働ける環境が整っていることを認識してもらうという、この事業のねらいを達成できた。
- ② 働く環境が整っていることを踏まえた上で、長野市内には多くの専修学校があり、それぞれ特色ある授業が行われていることについても周知できた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

- 今後も、多くの高校生に対して、地元にも就職先があることを周知する取組を継続したい。
- 地元での就職のために、特色ある地元の専門学校があることについても周知する取組を続けたい。
- これらの取組を継続することで、長野市内の専門学校の学生の地元就職率を向上させ、地域の活性化に寄与したい。

自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【会場開催: ホテルメトロポリタン長野】

【目標・ねらい】

- ① 高校生に対して、生まれ育った地域で働ける環境が整っていることを知ってもらう。
- ② 北信地域の高校生の地元専修学校への進学を促進する。

※自己評価【A】

【理由】

- ・当初高校生の参加者を100人と予定していたところ、大きく上回る173人の参加があった。
- ・参加者のアンケートでは、「専修学校に興味をもてた、針路選択の参考になった」など、好評の感想が寄せられた。

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	戸隠古道 神道（かんみち）の歴史と景観を守る「西行千年桜の杜」事業
事業主体 (連絡先)	戸隠中社・宝光社地区まちづくり協議会 (事務局) 026-254-2888
事業区分	自分らしく活躍できる元気な地域づくりの推進
事業タイプ	ソフト
総事業費	840,000 円（うち支援金：672,000 円）

事業内容

戸隠神社火之御子社の境内にあった「西行桜」（オオヤマザクラ）の子孫の苗木を神道（かんみち）沿いに住民参加で植樹し、子供たちをはじめ参加者の心を育む思い出づくりの場とするとともに、歴史ある西行桜を次世代に継承していくものとして実施した。一方、現在はうっそうとした樹林が、日光が入り明るく見晴らしを確保することができ、休憩舎の利用者に対してもクマ等の獣害事故の防止対策にもつなげることができた。

- ・植樹地の整備 約 1,000 m²（伐採）
- ・オオヤマザクラ植樹 23 本
- ・現地見学会（学習会）25 名参加



【目標・ねらい】

- ① 歴史ある西行桜の継承
- ② 神道（遊歩道）の景観整備
- ③ 藪払いによる獣害対策

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

地域住民に対して戸隠古道「神道（かんみち）」の歴史的価値の醸成啓発を住民に対しすることができた。また、「西行桜の植樹」は、地域の誇りとして次世代以降に継承していくための一歩となった。

- ・直接的醸成啓発効果 参加者延べ 45 人
- ・広報等による間接的醸成啓発効果 300 人

※自己評価【B】

【理由】

・国立公園法の手続きや伐採作業に想定外の難儀を要し、整備の予定範囲を縮小せざるを得なかったが、植樹本数の確保と小中学生をはじめ住民の参加もある中で実施することができた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

西暦 2118 年の西行法師生誕千年となるエポックイヤーに向けて夢を描き、先人が遺してくれた奥社参道の杉並木のように、「西行千年桜の杜」として西行桜（親桜）近くの「神道（かんみち）」沿いに今後も計画的に植樹し、大切に伝承していきたい。また、「西行千年桜の杜」は、開花期の他、紅葉期にも観光に訪れ歩く人に感動と癒しを与え続けられるよう、後々の世代にも地域の誇りとして歴史的意義も繋いでいくものとしたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	～故郷の風景を想う～「あんずで繋ぐ物語」事業2
事業主体 (連絡先)	長野商工会議所 〒380-0904 長野市七瀬中町 276 026-227-2428
事業区分	個性を活かした産業振興、雇用拡大に資する事業 特色ある観光地づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,310,540 円 (うち支援金: 1,048,000 円)

事業内容

あんずを活用した美観形成と、地域の名物化を作る。

- ① あんず苗木植樹プロジェクト 植樹祭 苗木配布
松代町内あんずの苗木を植樹と地域内 100 本の植樹
- ② あんずマルシェ開催
松代町内と千曲市内のあんず製品取扱店を集め
あんずマルシェを開催
- ③ 銀座 NAGANO にて、あんずジャム作りイベントと
出張マルシェ開催
- ④ あんず新製品開発
アプリコットソーセージドッグを開発し、松代高校
の学生に試食していただき、意見を頂いた。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①あんず苗木植樹プロジェクト 今年は、学生向けに配布を優先するため、松代地区の小学校6校へ呼びかけました。それと、昨年配布していない地域住民への配布を行い、景観形成が進んだ。
- ②③あんずマルシェは昨年よりも出店数は減ったが、松代にあんずがあるということを知ったのか、各出展者の売り上げは昨年よりもアップしました。銀座 NAGANO での開催もしましたが、天候により、売れ行きは良くなかったです。④新開発は、ソーセージドッグを試食したまですしか進めなかった。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

美観形成について2年に渡りあんずの苗木の配布を実施したので、松代地区内に住む一定の方々へ配布ができたので、上手く育てて頂き、開花まで見守れればと思います。

あんずの開発は試作品を作り、松代高校へ試食をした感想はもらったので、来年度はもらった意見をブラッシュアップして、改良を行い 商品名・デザインパッケージなども学生と協業し、10月のあんずマルシェで学生による販売会を実施出来たらと考えております。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

(活動写真)



【銀座 NAGANO マルシェ】

【目標・ねらい】

- ① あんずの里美観形成
- ② あんず商品の消費拡大
- ③ 県外での松代あんず広報
- ④ 商品開発と試食

※自己評価 【B】

【理由】

あんずマルシェは認知が少しずつ増えてきているが、開発の方で学生との協業があまりできなかった

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	児童・生徒による総合的な学習「ふるさと松代再発見プロジェクト」支援事業 ーわたしたちの松代には、こんなすごい もの・ひと・ことがあるー
事業主体 (連絡先)	NPO 法人夢空間松代のまちと心を育てる会 TEL 026-278-1277
事業区分	(3) 教育、文化、スポーツの振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,219,039 円 (うち支援金: 974,000 円)

事業内容

(1) 学びの主体は学校で有り児童・生徒の皆さんです。わたしたちプロジェクトメンバーはその支援を志向している。実施にあたり、コンセプトは3つ

- ①学習支援 (素材追求の相談、講師紹介、地域との窓口、出前授業の実施)
- ②報告書の冊子化 (児童・生徒の学びを報告書に冊子化、松代再発見の学習や地域の皆さんの学びのテキストにする。)
- ③まち歩きの実施 (地域探求のためのまち歩き講師派遣)



【冊子印刷】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること

- ①松代小学校での町内学校長会義に時間をいただき趣旨説明と協力をお願いし各校の担当先生に直接会い理解いただきスムーズに出前講座が出来、児童生徒と先生等の学習に寄与した。
- ②各学校の特徴を活かした児童生徒による学んだ事をひとつにまとめいただき写真等をまじえた記録を冊子化が出来た。
- ③まちあるこの実施では松代高校では総合探求で5月と9月に「松代ぶら散歩」を行い各100名で計200名の参加が有り生徒と先生には松代町内の探求の学習が出来た。また西条小学校4年生12名はタクシーを使い10月3日にプロジェクトメンバー4名とで真田邸・文武学校を子どもたちと対話を手通してわたしたちも共に学ぶ姿勢を大切にして実行し生徒からは活発な意見交換が出来て達成感を感じた。

今後の取り組み

※毎年の校学校の授業の一阿寒としての活用がこの冊子が出来たことにより新たな生徒や先生方に読んだり、見て頂き各学校区内や松代の学習の資料集として活用して頂くと共に学習支援、講師派遣、出前授業、まち歩きの実施に向けた取り組みが出来る。

【目標・ねらい】

- ①学習支援
- ②講師派遣・出前授業の実施
- ③報告書の冊子化
- ④まち歩きの実施

※自己評価【A】

【理由】

- *目標の①～④まで完結出来た。
- *校長会議にださせていただき理解いただき、その後の取り組みにもスムーズに協力頂く事が出来た。
- *次年度の取り組みの相談が担当の先生方からすでに相談が来ています。(2件)

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	大岡の魅力を再発見し満喫するサイクリングガイドツアー ～Cycle up! Oooka～
事業主体 (連絡先)	大岡自転車活用推進協議会 (代表 内田光一郎 080-5145-1017)
事業区分	(8)その他 地域の元気を生み出す地域づくり
事業タイプ	ハード・ソフト
総事業費	2,637,703 円 (うち支援金: 1,944,000 円)

事業内容

1) 特色あるサイクリングコースの策定とガイド付きツアーの提案

- ①サイクリングガイドの基本スキルの習得
- ②ガイドコースの企画立案 (地域コンテンツの見直し)
- ③サイクルガイドツアーの実施
- ④県のアクティビティ動画サイト「体験! ながの」向けの動画制作への協力

2) サイクリング関連イベントの実施

- ・オープン試乗会 全3回実施
- ・個別試乗会 のべ5回実施

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ・サイクルガイド体験者 (試乗会含む) 32 人
- ・有料サイクルガイド 3回 6名
- ・ガイド希望者 (新規会員) 1名
- ・海外 (カナダ) からの移住希望者 1名
→サイクルツーリズムのチラシがキッカケで、6月に視察のため大岡来訪予定。

地域内にeバイクという乗り物を紹介することができた。eバイクを使った地域づくりの糸口をつかむことができた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

大岡サイクルガイドツアーが目指している地域の暮らしぶり体験型観光は、そのまま移住希望者への地域紹介の手段としても応用できると考え、大岡への移住検討者に向けたサイクルガイドツアーを提案する。今後の移住者向け地域PRの手段となり得るか検証したい。

また、地域内のサイクルガイドツアーコースをさらに開拓して、最終的には大岡の観光資源や地域紹介を兼ねたコースマップを制作していきたい。



【サイクルガイド養成講座】

【目標・ねらい】

- ①eバイクの有用性の検証
- ②サイクルガイドの基本スキルの習得
- ③地域コンテンツの洗い出しとコースづくり
- ④活動を通しての各種機関・団体との関係づくり

※自己評価【A】

【理由】初年度の活動をつうじて、観光資源として自転車 (eバイク) というツールの有効性を十分認識することができた。これは次年度以降の展開につなげることが出来る成果であった。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	寄贈冷蔵冷凍食品を活用した子育て困窮者支援と心身の居場所づくり
事業主体 (連絡先)	信州こども食堂印SDGs プロジェクト 長野市南千歳 2-15-3 トミノビル 202 TEL.026-217-4233
事業区分	(2)保健、医療、福祉の充実
事業タイプ	ソフト
総事業費	5,847,600 円 (うち支援金: 4,672,000 円)

事業内容

子育て世帯及び片親世帯を中心とした貧困層及びその予備軍へ食材無償提供を実施。参加される方々からも同状態の人をお誘い頂き、家計の不安解消や孤独感など心の改善を促進する。

【長野地域での具体的活動】

●地域も学生も巻き込むフードドライブ&フードパントリー【12回開催】 ●須高地区フードパントリー&ママさんおしゃべり場の新規開設【3回開催】 ●社会的養護が必要な若者へのフードパントリー&相談会【10回】 ●こども食堂連携食材保管および提供【保管約92トン/地域内こども食堂24カ所へ提供】 ●企業向け食品寄贈依頼活動【県内2回メール配信】 ●チラシとネットのイベント案内を実施 ●フードロス削減隊 (LINE公式アカウント登録 約170名→320名に増加 ●各種不安解消相談【全42回実施】

事業効果

過去2年に続き冷蔵冷凍食品を保管できるコンテナを稼働させることで生鮮冷凍食品の寄贈受入が増加した。【前年対比約4倍増加】また、広告で給食用冷凍食品製造企業1社と県内4企業しかない納豆企業の1社から定期的寄贈の参加が増えた事は企業協力意思拡大になった。フードパントリー食品配布も参加者からの紹介も含め増加した。【前年対比約5倍増加】食品配布希望の人が増えたことは広報の効果なのか？世間の状況悪化？なのか検証は微妙で、欲する人が増えている事への不安を覚えた。地域住民参加を狙うボランティア参加者は、小学生から通信制高校生、定期参加の大人と増え、感謝を感じたり感謝をする機会を創出し意義は大きかった。細かい相談を行った事も心のケアが出来た。

今後の取り組み

本年の活動を同地域で全ての活動を継続する。須高地区で開催した「しゃべり場」提供は、忙しいシングルマザーがゆっくりできなかつたり反省もあったため、形を変えて同場所で継続予定。3年間、補助金に支えられながら、事業の必要性の検証と、地域住民の協力体制・困窮者への安心感の提供などを実施できたが、その補助金に代わる資金調達など課題は残るので、その部分を強化します。

LINE公式アカウント、ホームページ閲覧者、FACEBOOKフォロワー、企業メールマガジンなど、3年間で培ったメンバーシップを駆使し、今後は費用を抑えた広報活動にシフトチェンジし、活動を継続していきます。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【12/24 クリスマスで他団体とコラボ開催】

【目標・ねらい】

- ① 生活困窮者に食品提供
- ② 住民企業団体の助け合い促進
- ③ 地域住民のボランティア参加
- ④ 孤独感や不安心の軽減

※自己評価【A】

過去2年続けてきた活動だが、今年は明らかに食品寄贈量、企業の定期寄贈量、食品配布量&申込人数、ボランティア参加数のいずれも過去最高だったため。特に学生の参加者が増加し、高齢者や専門家の協力も得られ、過去最高だった。

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	里山 de 世界の音楽プロジェクト～芋井地区地域巡回コンサート事業～
事業主体 (連絡先)	音楽とワインのコンサート実行委員会 (10月1日よりおんがくのたび舎)
事業区分	主) 教育、文化の振興 関連) 地域協働の推進
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,950,145 円 (うち支援金: 1,442,000 円)

事業内容

中山間地域の小さなコミュニティや小規模校において、文化的なイベントまで予算と人手が回らないことが多い。本事業は、音楽家自体が中心となって企画した“多文化共生”をテーマとして世界を感じる時間を提供するアウトリーチコンサート事業である。また、この事業によって地域住民同士や、観光客、移住者とも交流する機会を作るのを目的として企画した。

【具体的な事業】①住民コンサート(観光協会、住民自治協議会の上2回行った)②学校公演(地域にある小規模校2校)③グリーンコンサート(音楽と自然環境講演をセットにした小さなライブ形式)④世界の楽器交流合宿(県外から楽器学習者を招聘して合宿形式)

事業効果

- ① 交流人口/合宿で芋井地区を訪れた県外参加者と観覧に訪れた地域住民の交流、コンサート後の楽器体験タイムで地域住民同士の交流、が会場内で多くみられた。
- ② 教育・文化の振興/学校公演では、初めて見る民族楽器に子供達が興味を持つ様子が見られた。また、楽器に関連して世界の音楽クイズでより、他文化への関心を深めることができた。
- ③ 地域協働/全事業において、地域の団体・会社・学校と協働で行ったことにより、新しいコミュニティの形成(音楽鑑賞グループ)に役立てた。

今後の取り組み

今回行った4つの柱の事業のうち、“住民向けコンサート(芋井公民館コンサート)”“県外者むけ滞在型合宿(世界の楽器交流合宿)”“観光客向けコンサート(音楽の響く飯綱高原へ)”では、事務局員と事業費の増幅を検討し、参加者の増加を目指したい。参加者の増加によって、より交流人口増加、文化の根付いた地域発信が図られると思われる。

“学校公演”では、地域にもう一つある幼稚園へもお声かけをし、また違う演奏者を招聘しながら、『多文化共生テーマ』を子どもたちへ伝えていきたいと考えている。

美しい芋井地区の自然環境と共に音楽や文化が響く地域を目指して、引き続き努力していきたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【

【目標・ねらい】

- ① 地域住民・移住者・観光客の音楽を通じた交流(交流人口)
- ② 多文化共生を体感してもらう
- ③ 音楽イベントで地域活性化

※自己評価【 A 】

【理由】この事業を通じて新しいコミュニティの形成につながったこと、合宿などでは、観光以上に深く地域を楽しめたと参加者からフィードバックをいただいたことから、企画のねらいは達成したと評価できるため。

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	通明小学校150周年の庭の造成整備・活用事業
事業主体 (連絡先)	通明小学校150周年記念事業実行委員会 長野市篠ノ井御幣川 270
事業区分	(5)環境保全、景観形成に関する事業 (8)その他地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	8,124,099円 (うち支援金: 5,000,000 円)

事業内容

通明小学校の正門東側にある自然観察園について、在校児童や地域住民が安心して憩い集うことの出来る地域の新たな交流拠点として整備。植栽イベント、オープニングセレモニー、児童と地域の交流イベントを開催し、地域への愛着や誇りを高めた。

- ・150 周年の庭の造園整備 工事期間 4月～12月
- ・花と緑の植栽イベント開催 開催日 6月17日
- ・オープニングセレモニーの開催 開催日 9月30日
- ・合唱団・金管バンドの練習・発表会場利用



【通明テラス(150 周年の庭)】

【目標・ねらい】

- ① 危険個所の解消と環境美化
- ② 花と緑の植栽を通じた地域の世代間交流の実践
- ③ 自然災害の伝承

事業効果

- ① 支援金を活用した通明テラスの造成により、記念碑転倒の防止に対する十分な対策を図ることができ、季節感のある美しい草花や樹木が茂り、児童や地域住民が安心して憩い集うことの出来る庭美しい庭園を造成することが出来た。
- ② 同地区内で緑育活動を行っている御幣川区花咲かせ隊をはじめ、緑育活動を通じた新たな交流拠点の場が生まれた。
- ③ 令和元年10月の東日本台風により、同校通学区内は700世帯以上の浸水被害が発生したが、その内容を伝える自然災害伝承碑を建立することが出来た。

※自己評価 【 B 】

【理由】

・積極的な広報活動を通じて当地の認知度が高まり、朝の散歩の休憩や下校時の高校生が集うといった地域利用者が生まれた。

今後の取り組み

通明小学校同窓会組織を中心とした「維持管理委員会」が設立されており、当地の環境美化に小学校と連携して取り組むこととしている。美しい景観の維持を通じて、住みよい街づくりの実現に貢献していきたい。

また、定期的な緑育イベントの開催を通じて、地域における様々な世代間交流を推進し、子育て世代の支援の活性化等につなげる中、自分らしく活躍できる元気な地域づくりの推進を図りたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	働く女性の自律的なワークライフ支援事業
事業主体 (連絡先)	私たちのつながりづくり実行委員会
事業区分	(6)産業振興、雇用拡大(オ その他) 関連区分(1)地域協働の推進
事業タイプ	ソフト
総事業費	5,091,140円(うち支援金:3,529,000円)

事業内容

- ① 女性が活躍する地域づくりを考えるフォーラムとして「Work Style VISION」を開催
- ② 働く女性のキャリアプラン支援活動として、相談業務、メンタリングを実施、34件の相談(内、自主事業で15件)に対応した。
- ③ 社会課題セッションとしてオンラインのリビングラボくすんごい研究所>を5回開催し、72名の参加。
- ④ 地域協働の地域づくりを目的に、行政との対話サロンを2団体×2回ずつ開催した。
 <長野県庁かえるプロジェクトメンバー>10名
 <長野市役所人事・総務系メンバー>9名
- ⑤ ~ ⑦各種プロモーション

事業効果

- ① 108名が参加。実際の参加者数以上に終了後の反響(「自分も関わりたい」「中信・南信でも開催してほしい」等)が大きく、地域のビジネス団体や、長野地域外への連携の輪が広がっており、より多くの働く女性たちへ行動変容を起こすきっかけづくりを創出できることが期待できる。
- ② 相談件数としては決して多くはないが、実施後アンケートではすべての方が「こういう場が欲しかった」と回答している。今期は短期的なトライアル実施であったが、持続的に白走していく座組を検討。
- ③ ④ リビングラボでは広域、対話サロンでは行政、と越境ラーニング的な対話の場となった。

今後の取り組み

活動の方針はそのままに、地域社会、組織のコミュニケーションをリビルディングしていくことを目標とする。今後は、これまで以上に社会的インパクトを作り出すため、組織(主に地域の中小企業)と連携し、対話のインストール、相談の場づくりに取り組んでいく。また、当実行委員会についても、今後継続的に事業を推進していく体制を整えていく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
 「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた
 「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



Work Style VISION 初日

【目標・ねらい】

- ① 相談することを「あたりまえ」にする
- ② 対話インフラの創出
- ③ 自己理解(私が「やりたいこと」の自覚)

※自己評価【A】

・女性の参加者や連携希望者が増加したことはもちろんだが、地域のビジネス団体、長野地域外からの自治体や経営者等からの連携オファー、コンタクトが増え、地域社会に共感を創り出せていると実感している。

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	コミュニティタイムライン作成支援事業
事業主体 (連絡先)	須坂市 須坂市大字須坂 1528 番地 1
事業区分	(4)安全・安心な地域づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	3,689,400円 (うち支援金: 2,951,000円)

事業内容

須坂市では、令和元年東日本台風災害において、相之島町をはじめ広範囲に浸水被害が発生し、避難行動の遅れにより、多くの市民が逃げ遅れた。

防災減災による安全安心な地域づくりを推進するため、相之島町に対し、風水害に備え「事前に」行うべき行動を時間に沿って整理しまとめたコミュニティ単位の防災計画である「コミュニティタイムライン (CTL)」の作成支援を実施した。

- ・ヒアリング及びワークショップ (3回) 実施
：8月～12月
- ・作成した CTL の自治会への説明：1月
- ・作成した CTL に基づいた訓練の実施：R6 年度予定

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①期間内に CTL 作成、自治会説明を実施し、防災について住民周知ができた。
- ②アンケートを実施し、防災に対する意識の向上を確認できた。
- ③防災意識の向上を踏まえ、今後訓練や CTL の見直しを実施することで、地域防災力の向上が期待できる。
- ④市が実施する総合防災訓練への参加や実災害での連携及び近隣自治会との合同訓練の実施などにより、相互の連携強化が期待できる。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

令和6年1月28日、相之島町公会堂で住民に対し CTL と次のことについて説明。

- ① 今後 CTL に基づいた訓練の実施とともに課題の抽出・検討・改善を重ねていくこと。
- ② 次年度以降も千曲川沿川自治会に CTL を作成していくことから、他の自治会とも防災に関する広域的な連携を図っていくこと。
- ③ 8月に実施する総合防災訓練に参加・連携することで、市との連携強化を図っていくこと。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【ワークショップの様

【目標・ねらい】

- ① CTL の作成
- ② 地域住民の防災意識の向上
- ③ 地域防災力の向上
- ④ 市及び他自治会との連携強化

※自己評価 【A】

【理由】

- ・ CTL 作成過程での地域住民による防災意識の共有・向上の確認。
- ・ ハザードマップの理解についてのアンケート結果が CTL 作成前より9ポイント向上。

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	地域資源のデジタル化を推進し、デジタル人材の育成事業
事業主体 (連絡先)	須坂中央地域づくり推進委員会
事業区分	①地域協働の推進に関する事業
事業タイプ	ソフト事業
総事業費	2,315,321円(うち支援金:1,852,000円)

事業内容

- デジタル人材育成事業
 - ①「わくわくデジタル講演会+井戸端会議」
 - ②「おしゃべり講演会」
 - ③「d-コモンズ」講習会:4回
 - ④須坂小学校支援(2クラス):2年生・4年生
写真のフォトモザイクアート
- 地域資源のデジタル化推進事業
 - ①「イケてる須坂マップ」のイラスト地図と地域資源のデジタル連携
 - ②「d-コモンズ」+「須坂マップ」との連携
 - ③須坂の夏祭をフォトモザイクアートにする



【須坂小学校2年生学習支援】

【目標・ねらい】

- ①デジタル人材の育成
デジタル技術を習得しながら、「学び合う場」の提供
- ②地域資源のデジタル化し、「地域の魅力を発信する場」の提供

事業効果

- デジタル人材育成事業
 - ◎講師の話を基にと参加者同士の対話が実現し「デジタル化」の未来を考える人材育成
 - ◎講習会・小学校支援では、地域資源をデジタル化し、外部に発信し、デジタル人材の育成
- 地域資源のデジタル化推進事業
 - ◎アナログとデジタルで「子育てガイド(須坂市子育てガイドS*Kids)」連携させデジタル化に寄与
 - ◎フォトモザイクアートA1判3枚製作
地域資源のデジタル化の推進が図れた

※自己評価【B】

【理由】

計画した事業は、予定通りに実施できたが、中央地域への組織的なアプローチ(自治会・区長・分館長・役員・各種団体)が不足し、中央地域の参加者が少なかった。

今後の取り組み

須坂中央地域(17町)では、特に人口減少と少子高齢社会に対応した持続可能なまちづくりの推進が求められます。中心市街地をはじめ市街化区域においては、空き家や低未利用地の活用を促し、コンパクトシティの基盤が整った既存の都市機能を活かして、住宅や商業施設などの集積を促進する必要があります。本事業を須坂中央地域の17町での「デジタル技術の利活用」を推進する「人材の育成」と「対話と共創」の地域づくりに繋げる。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	須坂市どうぶつえんかるた製作活用事業
事業主体 (連絡先)	須坂市子ども読書活動支援研究会 (事務局 須坂市文化スポーツ課 026-248-9027)
事業区分	(3)教育、文化の振興
事業タイプ	ソフト事業
総事業費	1,078,000 円 (うち支援金: 678,000 円)

事業内容

市内及び市外の方に呼びかけ、動物園を題材としたカルタを公募や高校との協働で製作し販売、市内の幼稚園保育園、小中学校や公共施設等に配布し、動物園イベントや読み聞かせの会などでカルタ大会を実施するなど、地域資源として発信した

カルタの製作: 6月～10月

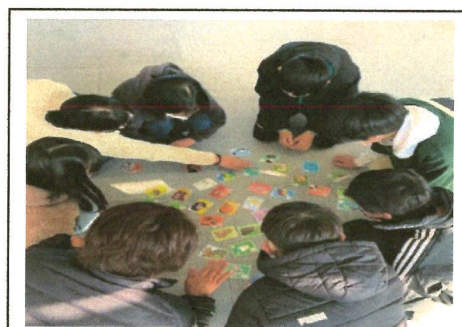
カルタ大会の実施: 10月～2月 (約100名参加)

須坂市動物園 10月28, 29日、1月6, 7日

高南地域公民館 1月5日

東部児童センター 1月5日

南部地域公民館 2月4日



【カルタ大会】

【目標・ねらい】

- ① 小中学校及び家庭での交流促進
- ② 地域資源として「動物園」を発信
- ③ 読み聞かせボランティア等のスキルアップと人材育成

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

幼児、小中高生やその家族などが、伝統行事としてのカルタ取りを行い、文化に触れるとともに、小中学校や公共施設及び家庭での交流が促進された。須坂の地域資源としての「須坂市動物園」を発信することにより、須坂へ訪れる人の増加、及び読み聞かせボランティア等のスキルアップと人材育成が図られた。会員のモチベーションアップにもつながった。

カルタ大会を数回実施したが、子供達を中心にたいへん好評であった。事業期間後についても実施要望が多い。

動物園でも絵札のイラストを利用したイベントを開催するなど幅広い活用がされた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今回すざかしどうぶつえんかるたを製作販売することにより地域資源を発信し、須坂市の知名度を上げ、地域の文化力を高めたと自負している。

今後すざかしどうぶつえんかるたを更に活用するため、継続して、読み聞かせの会や、他団体のイベントなどを通じ、幅広く活用していく。更に、大型カルタを製作し、小さなお子さんや、高齢者などイベント時に幼稚園や地域公民館などで活用していただくよう貸出等も実施していく。

※自己評価【A】

【理由】カルタ大会を計画以上に開催することができ多くの方に楽しんでもらうことができた。研究会のイベント以外でも保育園や地域公民館などで活用している声をお聞きしている。多くの学校等教育機関、市内施設等幅広くかるたを配布することができた。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	国立公園五味池破風高原自然園でのゼロカーボンへの取り組み
事業主体 (連絡先)	五味池破風高原管理委員会 須坂市大字豊丘 2440 番 8 須坂市大字豊丘 1882 番地 (郵送物は会長自宅)
事業区分	(5) 景観保全及び景観形成に関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	4,075,817 円 (うち支援金: 3,095,000 円)

事業内容

事業内容は、国立公園の景観を守り、ただ観光地として活用するだけでなく、子供たちが自然環境について「学び・考える場」すなわち環境学習のモデルエリアとなるよう「地域・地元企業・地元大学」が丸となって再生を図った。なお、事業実施にあたっては、地元企業・地元大学と地元住民が協力し、次世代を担う若年層へのアプローチを強く意識し、日頃から地域活動に理解のある豊丘小学校及び地域有権者等との連携を図った。次世代を担う若い世代を主な対象に、五味池破風高原自然園の景観を生かした、再生可能エネルギー（小水力発電）による「カーボンニュートラル」の必要性を学ばせるきっかけ作りを推奨することを目的に、全国に先駆けて国立公園ゼロカーボンを目指す取り組みを行った。



【目標・ねらい】

- ① ゼロカーボンの推奨
- ② 環境保全
- ③ 観光客の増加

事業効果

国立公園内で再生可能エネルギー（小水力発電）の活動を行うなかで、普段の生活の中で、利用しているエネルギーに関する考え方を見直す切っ掛け作りとなった。子供たちが自然園に訪れ、自然環境に興味を示したことで、保護者も自然園に対して関心を持つようになった。電灯の使用が出来るようになり、施設の安全性と利便性が向上し、電力源である小水力発電所の見学や室内に設置したパネルを教材に、ゼロカーボンの重要性を学ぶ教室を開催。今季は、猛暑により雨も少なく予定していた水量より少なかった。(現在のバルブ開放は70%) 過去のデータが無いことから水量計測の比較は難しいが30%程度の水量上昇(通年確保)が見込まれる。

※自己評価【 A 】

【理由】

- ・全国初の小水力事業
- ・若い世代に対するゼロカーボン背策

今後の取り組み

- ・視察対応予定
地元国会議員（若林健太氏）の見学希望有り。
- ・上越市環境政策課より、小水力発電事業に関する講演等を含めた依頼有り

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

(別紙様式12号) (第3の8関係)	
(長野地域)	
令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括表	

事業名	松川河川敷 東日本台風災害からの復興の推進
事業主体	旭ヶ丘地域づくり推進プロジェクト
(連絡先)	須坂市旭ヶ丘7-55 旭ヶ丘ふれあいプラザ内
重点テーマ	② 自分らしく活躍できる元気な地域づくりの推進
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,777,182円 (うち支援金1,384,000円)

事業内容

- 1. 「松川四季の道」・高水敷の維持管理と環境整備
維持管理・清掃・草刈り作業
年間11回実施、ボランティア延べ162人参加
- 2. 乗用草刈機・ビーバー取扱説明会
6月25日(日)・11月22日(日)開催
各々5名参加
- 3. 巨大段ボール迷路購入 9月19日



【四季の道・高水敷維持管理】



【巨大段ボール迷路購入・試作】
132,000円



- 4. 休憩用ベンチ・背もたれ取付看板納品



【休憩用ベンチ】



【ベンチ取付看板】



【ビーバー取扱説明会】

休憩用ベンチ
159,500円
ベンチ取付看板
56,320円

5. 芝生張付イベン広報チラシ作成

旭ヶ丘小学校PTA
地域住民に配布
ラベル 4,800円
インク 4,392円

【チラシ表面】



【チラシ裏面】



6. 芝張りイベント

10月27日（金）13時
30分より旭ヶ丘小学校
5・6年生児童67名
先生3名PTA・地元住
民18名、ボランティア
18名、合計106名が参
加して「芝張り」「ウ
ォーキング教室」「段
ダンボール巨大迷路」
の3班に分かれて活動
を行った。

費用 1,353,000円



【段ボール巨大迷路】



【芝張り】



【ウォーキング教室】



【どん汁ふるまい】

仮設トイレ
21,870円
児童移動用バス
20,000円
ウォーキング指導料
20,000円
損害保険
5,300円

合計費用

1,777,182円

事業効果

※地域活性化のための目標・狙いに対してどのような効果があったか項目別に記載すること

①支援金を活用して、芝張りイベントを行い、昨年張付けた芝生部分を活用して「段ボール巨大迷路」、正しいウォーキングを学ぶため、インストラクターの指導で「ウォーキング教室」を行い、最後にとん汁のふるまいを楽しんだ。地域の憩いの場としての「松川オアシス」の多様な楽しみ方を提案できたと感じている。昨年の児童たち同様、今年の児童達も自分たちで張付けた芝生という意識が強く、今後多様な形でこのオアシスとかかわりを持ち続け、その優れた景観とともに「自分たちが作り上げたオアシス」として、「ふるさと愛する心」を持ち続けてもらいたい。

【目標・ねらい】

- ①ふるさとを愛する心を育み、ふるさとの景観を大切にする心の醸成
- ②整備された「松川オアシス」「松川四季の道」継続的な維持管理
- ③「松川四季の道」の利用者の増大。
- ④東日本台風災害からの復興の推進

<p>②河川の清掃・草刈りの参加者人数は、今年の始めて経験するような異常な暑さの中、芝張りイベントの準備も含めて11回実施。参加者もこの暑さの中昨年より僅かではあるが増えた。乗用草刈機・ビーパーの取扱説明会6月・11月と2回実施。それぞれ5名が参加して、今後の維持管理のための後継者養成に手ごたえを感じた。</p> <p>③イベントを終了した週末には、小学校児童たちが芝生の上でサッカーを楽しむ姿が見受けられ、翌週には、北旭ヶ丘保育園園児たちが散歩で利用していた。設置されたベンチで休憩する「松川四季の道」利用者も数多くいた、11月に行った利用者調査</p>	<p>自己評価 A</p> <p>【理由】</p> <ul style="list-style-type: none">・「芝張りイベント」を旭ヶ丘小学校児童を中心として実施したため平日開催となったがPTAの方もご参加いただき盛況となった。・「松川四季の道」の利用者が確実に増えている。・芝生張付け拡張により素晴らしい景観となった「松川オアシス」の今後に大いに期待したい。
<p>でも推計ではあるが、目標の50,000人はクリアできた感じている。</p> <p>④東日本台風災害からの復興については、被災後4年を経過し、新型コロナウイルス感染拡大など、困難な時期にもかかわらず、支援金を3年間活用させていただき、立派な景観を作り上げる事ができました。心より感謝申し上げます。今後とも須坂建設事務所・須坂市道路河川課と緊密な連絡を取り、復興の推進、景観の維持管理に努力いたします。</p> <p>今後の取り組み</p> <p>※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること</p> <p>周辺の環境維持管理については、今後もボランティア参加者の増大、若返りに努め、誇りあるふるさとの景観維持に努力する、「松川四季の道」「松川オアシス」の利用者は増えていくことが予想される。「松川オアシス」も素晴らしい景観となり。市民。住民の憩いの場としての公園化を目指し、維持管理に努力していきたい。</p> <p>※次世代に継承するための体制づくり</p> <p>2021年度より3年かけて行われた環境整備、2022年度から取り組んでいる「ふるさとを愛する心を育み、景観を大切にする心の醸成」の効果は顕著で、当プロジェクト内の河川プロジェクトチームに4名の40代の方が入会した。地元松川町の自治会内の「松川河川愛護会」にも今年も新役員の方が入会することとなった、松川町自治会も世代交代の時期となっており、今年は6人の40～50代の方が入会された。今年度以降も従来の活動を地道に継続して、新しい若い世代を含めた体制作りに努力していきたい、</p> <p>※自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと</p> <p>「A」：予想を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた</p> <p>「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用について工夫や改善を必要とする点がある</p>	

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	防災×アウトドアの新しいアウトドアコンテンツによる臥竜公園一帯及び須坂市への観光誘客事業
事業主体 (連絡先)	アウトドアライフスタイル推進協議会 090-1486-3460
事業区分 重点テーマ	産業振興、雇用拡大 (ア 特色ある観光地づくり) 新たな需要に応える観光地域づくりの推進
事業タイプ	ソフト
総事業費	5,444,535 円 (うち支援金: 4,355,000 円)

事業内容

先般の台風19号の際は、千曲川の越水、八木沢川の
内水氾濫などが発生し、須坂市も家屋や農地、道路な
ど公共施設などにも甚大な被害を受けた。その際には
信州須坂ハーフマラソンの中止など観光面の影響もあ
り、現在は「one for All, all for One」「オール須坂+
α」をスローガンに、以下の取り組みを実施した。

【本年度の取り組み】

- 1、防災インストラクター養成講座の作成
- 2、インストラクター養成講座の実施
→参加者の声を聞き講座内容をブラッシュアップ
- 3、講座の認知を広げ、受講者獲得のため防災×アウト
ドアのイベントを開催

1、防災キャンプインストラクター養成講座&ミニ講
座

日時：7月22・23日、10月21・22日、12月16・17
日

場所：市内キャンプ場と臥竜公園百々川緑地

来場：5名、200名、18名

【コンテンツ】

防災キャンプインストラクターを養成する講座を開
催。10月のイベントでは、インストラクターもイベン
トを運営に関わることができた。

【防災キャンプインストラクター養成講座】とは

- 1、防災キャンプアドバイザー (1泊2日×1回)
- 2、防災キャンプインストラクター (1泊2日×2回)
- 3、防災キャンプディレクター (1泊2日×2回) (※
いずれも仮称)

の3段階の資格制度。基礎であるアドバイザー取得
後、インストラクターが受講できる。インストラク
ターは、防災キャンプを開催でき、さらにディレク
ターになるとインストラクター養成講座を自身で開講で
きる。

上記の講座の制作もできた。

【1、養成講座】



(別記様式第12号)(第3の8関係)

2, アウトドアライフスタイル防災フェス in 須坂

日時: 10月21・22日 10時~16時

場所: 臥竜公園百々川緑地

来場: 2000名

【コンテンツ】

アウトドアをきっかけに防災をもっと身近に感じていただき、防災キャンプインストラクター養成講座の紹介と受講者の確保、さらに須坂市=防災×アウトドアが楽しめる街として認知向上を図った。

防災キャンプインストラクター養成講座ブース
防災インストラクターによるミニ防災レッスン
→養成講座の見込み客の獲得を目的としたコンテンツに200名参加した。

【出店ブース】

協賛企業 21

【協賛・出店費】

協賛企業 BRONZE:3社=15.4万、協賛企業一社:5社=5.5万、協賛企業一般 2:1社=2.2万、協賛企業 FOOD:10社=16.5万、
フリーマーケット:×7社=2.31万 計:41.91万円

【2, アウトドアフェス】



事業効果

【定量効果】

◆防災キャンプインストラクター養成講座&ミニ講座

受講者数:223名

須坂市民をはじめ、県内、他府県からの申し込み、参加もあり関心の高さがうかがえ、来期に対してもベースができた。

◆アウトドア&防災フェス

来場:2000名

交流人口約2000名日帰り旅行費用が1名約1.6万円、
宿泊を伴うと

5.7万円(観光庁)。想定経済効果は、約2200万円。

協賛企業数: 令和2年度 26店舗⇒令和3年度 36店舗
⇒令和4年度 32店舗⇒令和5年度 21店舗

フリーマーケット: 令和2年度 14店舗⇒令和3年度
20店舗⇒令和4年度 20店舗⇒令和5年度 7店舗

【目標・ねらい】

- ① 交流人口の増加
- ② 災害からの復興支援
- ③ 防災意識向上
- ④ 波及効果最大化

※自己評価 【A】

防災キャンペインストラクター養成講座も完成し、来期以降の活動の基礎が出来上がった。また講座の参加者は近隣にとどまらず県内外から集まり、関心の高さがうかがえた。地域防災の向上の観点では、ミニ講座の参加者が200名にも上り、地域への浸透が図れ、防災意識の向上につながった。アウトドアイベントは、約2000名の来場者があり、引き続き交流人口の増加につながった。次年度以降に関しても、共同開催の打診などイベントとしての熟度が高まった。

今後の取り組み

- 1、防災キャンペインストラクターの定期開催と認知向上
- 2、復興に向け、変わらず須坂市の魅力発信、交流人口の増加を図る
- 3、他市内のイベント、団体との連携

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

(別記様式第12号)(第3の8関係)

(長野地域)

令和5年度 地域発元気づくり支援金事業総括書

事業名	農道協働整備事業
事業主体 (連絡先)	千曲市 (千曲市経済部農林課農村整備係 026-273-1111 (内線 3273))
事業区分	(1) 地域協働の推進に関する事業
事業タイプ	ハード
総事業費	4,153,248 円 (うち支援金: 1,892,000 円)

事業内容

地域で策定された「地域づくり計画」に基づき、地域住民の参加によるまちづくりを行う事業を支援する。

本事業は未舗装の農道を地域住民の手作り作業により舗装を行うことで、維持管理の軽減と荷痛み防止による農地の高度利用を促進し、住民と市がともに手を携えて進めるまちづくりを目指す。

市でコンクリート舗装の資材と、路面整形用の重機を手配し、地域住民の参加により実施しました。



【農道整備】

- ◇千本柳区 (C o n 舗装)
延長 L=83m 参加人員 15 人 (地域住民)
- ◇大田原区 (C o n 舗装)
延長 L=16m 参加人員 10 人 (地域住民)
- ◇倉科区 (C o n 舗装)
延長 L=40m 参加人員 10 人 (地域住民)

【地域住民が参加し、作業を進めます。】

【目標・ねらい】

- ①農道の維持管理の軽減
- ②農地の高度利用
- ③住民参画によるまちづくり

事業効果

地域住民自らが「地域づくり計画」を作成し、住民と市が共に課題解消を進めることで、住民参画によるまちづくりの意識高揚と経費の節減につながりました。

今後の取り組み

今後も、市と住民との協働によるまちづくりを積極的に推進します。

※自己評価【 B 】

【理由】

農道を舗装し維持管理の軽減と荷痛みを防止することで、農地の高度利用を促進することは元より、「住民参加」による住民と行政が共に手を携えて進めるまちづくりの推進が図れた。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	姉妹都市農産物PR事業
事業主体 (連絡先)	千曲市 (千曲市杭瀬下2丁目1番地)
事業区分	(6) 産業振興、雇用拡大
事業タイプ	ソフト
総事業費	846,132 円 (うち支援金: 670,000 円)

事業内容

姉妹都市3市町(宇和島市、射水市、横芝光町)で農産物の販売、PRを実施。

- ・宇和島市きさいや広場「千曲市フェア」
6月30日(金)～7月2日(日) あんず、加工品
- ・射水市農業産業まつり 11月11日(土)
りんご、きのこ、あんず加工品
- ・横芝光町産業まつり 11月19日(日) りんご

生産者や加工品業者同行による対面試食販売、新たに製作した販促物を活用したプロモーション、市長トップセールスなどを実施。まずは千曲市にあんずやりんごといった特産品があることをPRしながら販売することで、認知度向上、ファン獲得、販路拡大に取り組んだ。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 対面でPRしながら販売し、予想よりも多くの方に購入していただいた。試食を提供すると、生のあんずに対しては「初めて食べたがとてもおいしい」という方が多かったほか、りんごについても反応は良く、認知度が向上するとともに多くの方に好印象をもってもらえた。また、生産者や加工品業者にとっても今後に向けた意識向上につながった。
販売実績は以下のとおり。
 - ・あんず(加工品含む) 477,000 円 (目標 80,000 円)
 - ・りんご 2,155,000 円 (目標 600,000 円)
- ② りんごの長野県オリジナル品種については、POPで紹介しつつ、対面で特徴を説明した。食べ比べの試食を出すと、食味の違いを楽しんでもらうことができた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今年度の事業で千曲市産農産物の認知度は向上したと思われるため、今後は継続的に購入してくれるファンを増やしていく必要がある。今年度と同様のイベントでさらに販売量を増やしつつ、姉妹都市のつながりを生かした新たな販路獲得に取り組む。

今年作製した販促物は、千曲市のPRに有効であり、繰り返し使える仕様であるため、来年度以降も活用していく。一方でイベントにおいて他のブースでは、さらに人目を惹く販促物も見られた。それらを参考に新たなツール作製も検討する。



【宇和島市「千曲市フェア」】

【目標・ねらい】

- ① 農産物等のPR及び販路拡大
- ② 県オリジナル品種のPR

※自己評価【 A 】

【理由】

- ・目標を大きく上回る販売ができ、千曲市産農産物の認知度向上につながった。
- ・イベント主催者や店舗の方にも好評で、次年度以降につながる取り組みとなった。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	地域密着型交通システム（シェアサイクル）の構築支援事業Ⅲ
事業主体 (連絡先)	千曲市 経済部 観光課 026-273-1111 (内線 3291)
事業区分	(6) 産業振興、雇用拡大 (ア 特色ある観光地づくり)
事業タイプ	ソフト
総事業費	8,066,300 円 (うち支援金: 5,000,000 円、事業収入 719,728)

事業内容

姨捨の棚田や戸倉上山田温泉など観光地域資源への交通手段の確保、しなの鉄道沿線地域の回遊性向上、持続可能な脱炭素社会づくり等についてシェアサイクルを活用し、その有効性について検証を実施。

- ・運用期間 4月1日～12月17日
- ・自転車台数 45台
- ・ポートか所 13か所
- ・広域連携・関係者間の情報共有 定例会実施
- ・イベントにおいてシェアサイクル普及啓発、脱炭素社会推進活動を実施



【利用促進等のブースを設置】

【目標・ねらい】

- ①シェアサイクルの本格導入を見据えた需要把握
- ②ゼロカーボン推進に資する自転車利用の促進
- ③自転車活用による地域活性化・QOLの向上
- ④しなの鉄道沿線地域（上田市）との連携

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①シェアサイクルの利用者数が令和4年度と比較して809人増加した。また利用回数も913回程度増加し、事業目的に即した取り組みを進めることができた。
- ②市外の登録者数が676人と増加してきており、市外からの来訪者に向けた交通手段として、シェアサイクルが活用できる仕組みについて検証できた。
- ③ゼロカーボン意識に係るアンケート調査について、マイカーからの乗換が43%、環境に良いために利用が17%、環境にやさしいが39%の回答があり、意識の醸成が図られた。

※自己評価【 B 】

【理由】

- 利用者数： 1,993人
(R4比較：日平均値0.72増加)
- 利用回数： 2,475回
(R4比較：日平均値0.35増加)
- 回転率： 0.21回/台・日
(R4比較：平均0.01増加)

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

- ・令和3年度から令和5年度まで実施した検証結果をもとに、この地域において適切な利用ができるサイクルポート場所や電動アシスト自転車の台数等を検討し、利用者数・利用回数の増加につなげていくとともに、本事業における観光誘客促進の目的に即した利用を促進していく。
- ・地球環境にやさしい自転車利用促進に向けた市民等の意識醸成についても推進する必要があるため、引き続き啓発の取り組みについて担当部署と連携し実施していきたい。
- ・他の交通手段との活用方法や、関係団体等との意見交換・協議を進め、一層利用促進のためにできる取り組みを検討していきたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	地域創生型ゼロカーボンチャレンジ
事業主体 (連絡先)	戸倉上山田商工会 (千曲市戸倉 1750)
事業区分	産業振興、雇用拡大に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	5,406,060 円 (うち支援金: 4,323,000 円)

事業内容

本事業は3年目であり、戸倉上山田商工会ゼロカーボンチャレンジ事業の一層の認知度向上と啓発活動を実施しました。具体的には、事業周知用パンフレット制作と配布、本事業 PR 動画とショート動画の制作と公開、事業者がゼロカーボンに取り組んでいる動画(30 社分)、ポータルサイトの改修、各イベントや展示会での啓発活動を実施してきました。特に、ショート動画の視聴回数がどの動画よりも突出し、幅広い方々に視聴していただくことができました。地域の事業者がまとまってゼロカーボンに取組、それがポータルサイトにまとまっている地域は、他にはなく、本事業が先進的な取り組みという点で幅広く訴求することができました。

事業効果

地域の事業者がまとまってゼロカーボンへの取組をしている点が強く訴求できるため、展示会などで、パンフレットをお渡しすると、すごい取組をしているねと高く評価されます。実際に動画を公開した事業者においては、この動画がきっかけで、新たなお客様の来店や取引の話があった等の効果があり、本事業の効果は非常に高いと考えています。また、動画を掲載し続けていることが、視聴回数につながっているため、今後も継続的にゼロカーボンの必要性を訴求することができるようになりました。

今後の取り組み

ゼロカーボンの達成に向けて、1 社単位、1 家庭単位ではなく、地域として取り組んでいく必要があります。また、環境保全活動を他人事と捉われないように、多くの事業者や住民の方々に、ゼロカーボンを目にする機会を増やし、一人ひとりの思考と行動を醸成していくことが必要不可欠です。今後も、イベントや展示会での啓発活動、ポータルサイトや動画による WEB 上の啓発活動で、戸倉上山田商工会ならではのゼロカーボンの必要性の訴求をしていきたいと考えています。



【パンフレット】

【目標・ねらい】

- ①ゼロカーボンの取組を全産業へ波及させる
- ②活動を WEB で情報発信

※自己評価【B】

【理由】

- ・パンフレットを配布、動画の視聴を通じて、多くの方に本事業を周知できた。
- ・当初スケジュールから遅れが発生したが、滞りなく事業を実施できた。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	千曲市ハロウィン・フェスティバル		
事業主体 (連絡先)	千曲商工会議所青年部 026-272-3223		
事業区分	(1)地域協働の推進		
事業タイプ	(6)産業振興、雇用拡大 (ア 特色ある観光地づくり)		
総事業費	7,977,781 円 (うち支援金 :		4,156,000 円)

事業内容

10月8日に上山田文化会館にて上山田温泉街をめぐる「トリックオアトリート」及び「屋台」を開催した。

10月9日に信州の幸あんずホールにて屋代駅前商店街をめぐる「トリックオアトリート」及び「お化け屋敷」「仮装コンテスト」「クラフト、ワークショップ」「屋台」を開催した。

また、9日夜、千曲橋緑地公園に集合して「スカイ・ランタン」「花火」を実施して、千曲市20周年を祝った



【会場の様子】

【目標・ねらい】

- ① 千曲市20周年を祝う
- ② 千曲市を発信、宿泊客増(経済効果)
- ③ 子供たちに希望を与える

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

①のべ参加者数4,000名。千曲市の民間主催イベントとしては最大級の参加者数となり、最後の花火では主催者、観客一丸となって20周年を祝うことが出来た。

②千曲市の発信は狙い通りいかず、正確な数が追えなかった。宿泊客は前年比107.3%と微増。

③多くの子供たちが仮装して参加してくれた。人が途切れることなく、混乱も予想される中賞賛こそあれクレームはほぼなく、全ての事業で希望を与えられたと感じている。又、10に上る協力団体が一つの目標に向かって活動してくれた。

※自己評価 【 B 】

【理由】

- ・過去最大級の参加者数
- ・数値目標の未達
- ・子供たちに「コロナ」以外の共通の思い出を作ることが出来た。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

・今年は20周年という特別な年で、予算確保について賛同を得やすかった。今後、同じ規模でハロウィン事業を展開することは予算的に厳しいが、市民からは継続を希望する声が多い。

具体的には未定だが、規模縮小して継続するか、規模に見合った別事業を展開するか選択が必要。ただ、間違いなく言えることは、コロナ禍で「事業立ち上げプロセス」の継承が進まなかった中、若い世代に「経験」させることが出来たという点。参加者の感嘆を直に見聞きし、やる意味、やりがいを伝えることが出来た。また、別団体とのネットワークの再構築も果たした。

次世代への啓発、人材育成に取り組み、今回、その起点になったことが非常に大きい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和5年度長野地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	北信地域・東信地域を結ぶ、焼き立てパン×千曲川ワインバレーフェスタ in 戸倉上山田温泉
事業主体 (連絡先)	一般社団法人信州千曲観光局 026-261-0300
事業区分	(6) 産業振興及び雇用拡大に関する事業 ア 特色ある観光地づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,144,122 円 (うち支援金: 866,000 円)

北信地域・東信地域を結ぶ、焼き立てパン×千曲川ワインバレーフェスタ in 戸倉上山田温泉

事業内容

・全国的に知名度のある「戸倉上山田温泉」と NAGANO WINE を連携させたイベントを、温泉街の河川敷で行い、千曲市＝ワインのイメージを周知させ、ワインを求める観光客を取り入れる仕組みづくりを図る。

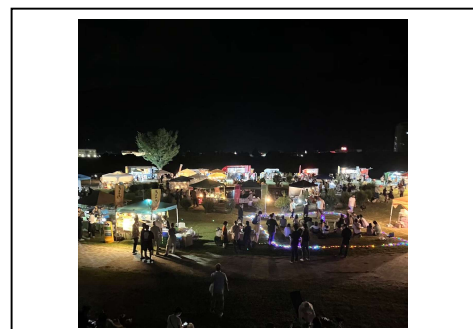
日にち: 2023 年 9 月 2 日(土)

時間: 16:00～21:00

場所: 戸倉千曲川緑地公園

〈電車〉戸倉駅、姨捨駅から臨時シャトルバス運行

- ・ソムリエ講座
- ・スタンプラリー
- ・ワイン、食事ブース約 50 ブース



【目標・ねらい】

- ① 観光客の満足度を上げるため、地元のワインを提供している旅館・飲食店等を増やす。
- ② 地元観光業者向けの講座や周知なども行う。
- ③ 広域でワインツーリズムを行うにあたって、拠点となる

事業効果

実際に浴衣姿でイベント会場に訪れる方が多数おり、その方々のお話を聞くとチェックインの際にイベントを知ってご参加された方が多数いた。また、夏の夕方に河川敷で行うイベントという建付けで開催したため、デイキャンプなどを楽しむ家族連れも多数集客できた。これにより、新規顧客の獲得には成功したと言える

一方、地元観光事業者の巻き込みや広域の拠点という点では検討事項が多々残る結果となった。

・戸倉上山田温泉内「笹屋ホテル」ではイルフェボーのワインを使用したメニューを開発された。また、地域内でのコンビニで取り扱いも始まった

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

イベントの集客から見ても「NAGANO WINE」の可能性を感じることができた。また、当イベントに参加した旅館関係者からも、毎月このイベントを行ってほしいなどのお声も上がったため、好感触だった。そのため、今後も形式を変えながら同様のイベントを行っていくことで、地元周知を深め、「戸倉上山田温泉」＝「NAGANO WINE」のイメージを植え付けられるように尽力する。

※自己評価【C】

【理由】

沢山の集客を行うことができたため、イベントとしても事業評価は高いが、その他千曲川ワインバレーの認知向上や、温泉街との連携に関しては検討事項が多い

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	地域のみちづくり支援事業
事業主体 (連絡先)	坂城町 (0268-82-3111)
事業区分	(1) 地域協働の推進に関する事業
事業タイプ	ハード
総事業費	1,186,548 円 (うち支援金: 593,000 円)

事業内容

林道については、地域の生活を支える道として地域から補修・改修の要望が多く、以前から地域住民との協働作業により、林道整備を実施してきた。

町では、要望のあった林道について、事業規模、内容等から地域との協働作業が可能な箇所について、設計を行い、これをもとに原材料、所要作業、必要な重機等を算出、地域へ原材料を支給するとともに、舗装作業等の施工のサポートを実施した。

●林道網掛線舗装工事 L=70m W=3.0m



【舗装工事風景】

【目標・ねらい】

- ①地域に密着した道路の協働作業による整備
- ②地域協働活動の推進
- ③施工技術の継承

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

地域住民と受益者が自ら施工することで、地域の財産として愛着と責任を持ち、大切に管理していく気運の醸成が図られた。

施工に際し、ノウハウを持ったベテランから次の世代へとその技術が継承されるなど、地域の連携感がより一層育まれた。

※自己評価【B】

【理由】

予定区間の補修・改修を完了
施工も安全に行われ、地域で利用
する道路を住民自ら整備すること
で地域の連携を深め、協働の意識
を高めるねらいを達成できた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今後も地域に必要な林道の協働による整備を通じて地域協働活動の推進と施工技術の継承を図るため、積極的に原材料支給等、地域への支援を実施していく。

引き続き地域のニーズを踏まえながら、効果的な支援を図りたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	よろずぶしん事業
事業主体 (連絡先)	小布施町役場 建設水道課 都市・建設係 (026-214-9105)
事業区分	(1) 地域協働の推進に関する事業
事業タイプ	ハード
総事業費	3,048,760 円 (うち支援金: 1,511,000 円)

事業内容

従来から行われてきました、地域住民による道路や水路の清掃などに加え、道路・公園・水路等の軽微な補修等の「よろずぶしん事業」を支援することにより、地域活動事業の推進・拡大を図った。

支援内容は、原材料の支給(U字溝のグレーチング)を飯田自治会、大島自治会、松村自治会、北岡自治会、東町自治会に行ないました。



【水路改修事業】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

① 水路改修事業

地域づくりへの積極的な参加を図り、住民と行政が一体となった安全で安心な活力ある協働のまちづくりに寄与できた。

【目標・ねらい】

- ① 地域づくりへの積極的な参加を図り、住民と行政が一体となった安全で安心な活力ある協働のまちづくりに寄与する

※自己評価 【 B 】

【理由】

予定していた効果が得られた

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

地域の協働事業に対して、地域のできる事業は地域で行うという自主的な活動が盛んになるよう取り組んでいく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	住民との協働による有機資源の町内循環の推進事業
事業主体 (連絡先)	小布施町 (電話番号: 026-214-9100 メールアドレス: soumu@town.obuse.lg.jp)
事業区分	主となる区分: 環境保全、景観形成 (関連する区分: 産業振興、雇用拡大)
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	4,734,700 円 (うち支援金: 3,214,000 円)

事業内容

町は、令和4年度より地域発 元気づくり支援金の助成を受け、ゼロ・ウェイスト（ごみを出さない町）の達成へ向けて、町内可燃ごみの約4割を占める有機資源の循環施策の一つとして、土壌改良材等に使用できるバイオ炭化の実証を開始した。令和5年度は、加えて木質バイオマスボイラによる熱エネルギー利用も開始。

<令和5年度の実証内容>

- a) バイオ炭化を継続、イベント販売等で炭利活用を検証
- b) 木質ボイラを設置し、導入効果を検証

<令和5年度実施概要>

通年: バイオ炭販売・視察対応 11月: ボイラ運開・現地視察会
実施場所（設置場所）: おぶせフラワーセンター など

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

<可燃ごみの削減量>

剪定枝削減量: 6 トン

<温室効果ガスの削減量>

ボイラ稼働による削減量: 41.445 トン-CO2/年

<循環利用促進に向けた定性的な効果>

- a) バイオ炭の商品開発に係る方針決定
- b) バイオ炭の土壌活用に向けた業界関係者との接点創出
- c) 木質ボイラの運用方法・原料別の燃料適正等の確認

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

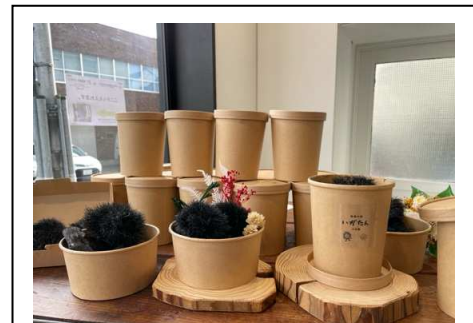
バイオ炭については、商品開発に一定の方向性が見え、また土壌活用でも同分野のプレイヤーと接点生まれるなど、イベント販売等による取組の発信から連携拡大の可能性も生まれている。今後は、本事業で導入した炭化設備のよる製炭事業の経常収支を黒字化すると共に、町内の剪定枝全量を処理できるような連携拡大を模索する。

また木質バイオマス熱利用では、重油ボイラのみで運用していた過年度と比較して、さっそく経費抑制の効果を確認できた。今後は燃料供給体制をさらに充実させ、出力を最大限発揮することでより導入効果を発揮すると共に、需要・供給両面での事業拡大を周辺地域とも協議して進める。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【栗イガ炭を活用したオブジェ（消臭炭）】

【目標・ねらい】

- ① 有機資源の焼却処分量削減
- ② 温室効果ガスの削減
- ③ 町内主体と連携した資源循環の促進

※自己評価【B】

【理由】

- ◇ 木質ボイラ運開およびバイオ炭の販売・利活用を達成できた
- ◇ バイオ炭の今後の商品化に一定の方向が見えた
- ◇ ボイラ導入効果が確認できた

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	おてんま支援事業
事業主体 (連絡先)	高山村役場建設水道課建設係 電話番号：026-214-9297
事業区分	(1) 地域協働の推進に関する事業 (4) 安全・安心な地域づくりに関する事業
事業タイプ	ハード
総事業費	2,743,906 円 (うち支援金：1,826,000 円)

事業内容

従来から地域住民により行われてきた道路や河川清掃などの「おてんま作業」に加え、道路・河川・水路の軽微な補修、景観整備事業等の「おてんま作業」を支援することにより、地域活動事業の拡大を図る。

支援内容としては、原材料の支給（道路・水路の補修材や環境整備のための資材、砕石など）。



【三郷区御堂耕作組合
おてんま支援事業】
【目標・ねらい】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

地域づくりへの積極的な参加促進により、住民と行政が一体となった活力ある協働の村づくりに寄与できた。

この協働事業に対し、長野県の支援を受けていることにより、住民の作業意欲や意識の向上が図られた。

※令和5年度実施団体：9団体（赤和区、紫区、牧区、天神原区、御堂耕作組合、坪井堰水利組合、平塩講、中山集落、山田牧場区）

参加人数：79名

- ①住民が主体的に地域づくりを行う。
- ②住民と行政が一体となった活力ある協働の村づくりを進める

※自己評価【 B 】

【理由】

地域づくりへの積極的な参加と、住民と行政が一体となった活力ある協働の村づくりが推進できた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今後、さらに協働の村づくりを推進するため、活動を定着させていきたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	住民主体のみち直し事業
事業主体 (連絡先)	信濃町 (建設水道課 建設係) Tel.026-255-5922
事業区分	(1) 地域協働の推進に関する事業 (4) 安全・安心な地域づくりに関する事業
事業タイプ	ハード
総事業費	1,085,436 円 (うち支援金: 723,000 円)

事業内容

町において原材料(砕石・生コンクリート)を地域に支給し、住民の労力により、町道の維持管理を行う。

工事か所: 町内17地区の町道等

工事内容: 未舗装道路の敷砂利整備、未舗装道路のコンクリート舗装等



【菅川区】

【目標・ねらい】

- ① 良好な生活環境の保全
- ② 住民協働のまちづくりの推進

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

当該事業の対象となる町道は、農業用としての利用率が主なため、農業生産の向上と安全確保が図られる。また、業者発注では割高となる工事が大幅なコスト削減になる。

地元住民が作業することにより、細やかな整備ができ、災害時等には現状を把握していることにより、復旧に向けての目安ともなる。

地元住民がともに汗を流すことで、より一層のコミュニケーションが図られ、地域の“げんき”として反映されることが期待できる。

※自己評価【A】

【理由】

地域住民がともに汗を流すことで、より一層のコミュニケーションが図られ、地域の“げんき”として反映されることができた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

自助・共助の考えにより、住民が主体的に行う地域づくりを進めるため、住民に原材料を支給し、道路・水路の維持修繕を行い、愛着心と責任を持つことで、地域の財産としての意識を高め、良好な生活環境を保全することを観点に継続して実施したい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	童話サポーター創出事業
事業主体 (連絡先)	信濃町教育委員会 黒姫童話館係 026-255-2250
事業区分	(3) 教育、文化の振興 (1) 地域協働の推進
事業タイプ	ソフト
総事業費	860,107 円 (うち支援金 657,000 円)

事業内容

- ・ 童話館サポート会員による絵本の読み聞かせ、紙芝居実演を実施。
(5月から11月) のべ11日×3回 実演者のべ55名 観客のべ466名
- ・ 実演・講演会を通じて地域の読みきかせ活動を支える人材育成
- ・ 誰でも訪れることができる当館で児童文化に関心を持っていただくため、講演会や教室などを実施。
- ・ 朗読教室(4月～9月) 受講者14名
- ・ 朗読教室の発表会9月23日午前 40名観覧
- ・ 山根基世講演会9月23日午後 100名観覧
- ・ 紙芝居を楽しむ日 10月21日実施 78名観覧
- ・ 酒井京子紙芝居講演会 10月22日実施 40名観覧



【山根基世講演会】

【目標・ねらい】

- ①子どもから大人まで児童文化に関心を持ってもらう。
- ②紙芝居・読み聞かせの技術の習得
- ③得た技術の発表

事業効果

- ①著名な方の講演会を開催することで児童文化に関心のある人たちへ「学び」を提供することができた。
- ②朗読教室を実施し、発声や人前に立つ基礎を学習。サポート会員の受講を促し技術向上につなげた。
- ③効果として童話館の読み聞かせ・紙芝居実演をするサポート会員はR4年度23名から32名、(前年比139%) うち町民登録者も4名から8名(前年比200%)と増加した。
- ④サポート会員による紙芝居・絵本の読み聞かせ実演回数11日×3回(前年比122%)、実演者(のべ数)55名(前年比141%)、観客(のべ数)466名(前年比132%)。実演や講演会等の開催により童話館のサポート会員の活動を活発にすることができた。

※自己評価【 B 】

【理由】

- ・ 講演会、教室を実施し児童文化に対する関心が高まった。
- ・ サポート会員が前年比139%増加
- ・ 読み聞かせイベント延べ観客が前年比132%増加

今後の取り組み

各地から集まっているサポート会員同士の連携を深めるため、各地の活動情報を集め、童話館以外で一緒に読み聞かせや紙芝居の発表をするなど交流や連携を深めるネットワークを構築する。

また、活動を継続させるため、引き続き「学び」の機会を提供し、人材育成と児童文化に関心を持つ人の掘り起こしに取り組む。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	のじりっ子トライアスロンフェスタ
事業主体 (連絡先)	のじりっ子トライアスロンフェスタ実行委員会 長野県上水内郡信濃町柏原2692-12 TEL 026-217-2535
事業区分	身近に文化とスポーツがある豊かな地域づくり推進
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,716,783円(うち支援金:1,337,000円)

事業内容

○ジュニアの育成

2028年に長野県で開催される第82回国民体育大会を目標に講習会5回、記録会1回、大会2回を開催し、ジュニアの育成を図る。

○地域の活性化

トライアスロンを通じて選手の家族や応援者が信濃町に訪れるきっかけを作るとともに、信濃町の自然や特産品に触れていただき、再度信濃町に訪れていただくリピーター増を図り、地域の活性化を図る。

○トライアスロン競技人口の増

トライアスロンの競技人口が年々減少することから「魅力ある大会等の実施」を計り、競技人口の増を計る。



【7月8日 記録会】

【目標・ねらい】

- ①ジュニアの育成
- ②地域の活性化
- ③トライアスロン競技人口の増

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

○ジュニアの育成

講習会計5回開催で総計17名の参加。大会等2回開催で総計37名の参加。

○地域の活性化

特産品(とうもろこし)を支給し、全国から参加されていることから、特産品のPRが出来、リピーターが増えた。

○トライアスロン競技人口の増

コロナ禍の大会スタイルが確立できて、安心して参加できる大会となった。

※自己評価【 B 】

【理由】

コロナ感染が拡大している中で参加者は激減したが、コロナ禍の大会運営や講習会の開催スタイルが確立出来た。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

○ジュニア育成・トライアスロン人口の増

2028長野国体まで講習会や大会を実施して、ジュニアの育成並びにトライアスロン競技人口の普及に努めます。

○地域の活性化

トライアスロン大会等を通じて信濃町の自然や特産品に触れていただき、選手ではなく再度観光として訪れていただく。リピーターの増加に伴う地域の活性化を図る。

※自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	信濃町“Eチャリ”プロジェクト2023
事業主体 (連絡先)	一般社団法人 信州しなの町観光協会 信州しなの町観光協会 住所：信濃町大字柏原 2692-12 TEL 026-255-3226
事業区分	(6)産業振興、雇用拡大（ア 特色ある観光地づくり） (8)その他地域の元気を生み出す地域づくり
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	1,226,824 円（うち支援金：934,000 円）

事業内容

- ① レンタサイクルを活用した観光振興
- ② 電動自転車の購入による基盤整備
- ③ 「サイクル＋α」
オリジナルブレンド茶作り体験会の実施



【目標・ねらい】

- ① レンタサイクル利用者拡大
- ② 自転車による二次交通の補完
- ③ サイクルツーリズム促進
町内周遊促進

事業効果

- ① 夏休みシーズン等での観光客のタクシー待ち混雑の解消の施策として、レンタサイクルは大変有効であった
- ② 電動自転車は、山岳路や坂道の多い町内観光に有効で、観光客の評判が良かった
- ③ 地域の新しい観光コンテンツ創造を目的に、黒姫和漢薬研究所と協働でオリジナルブレンド茶作り体験会を実施したが、参加者の満足度は高く今後、開催方法や時期・参加費等を検討して継続開催していきたい

※自己評価【B】

【理由】

- ・電動自転車の利用者が増加し、予定通りの効果が得られた
- ・準備を入念に進める事で、内容と品質を高める事ができ、満足度の高い体験会を実施できた

今後の取り組み

- ・電動自転車の拡充に対する要望は観光客から多く寄せられており、基盤整備として今後も拡充に努めていきたい
- ・今年度は野尻湖周辺の観光事業者2社との連携も進められたが、黒姫駅舎での基盤整備を進めると共に、連携事業者の拡大に注力したい
- ・電動自転車を使ったサイクルツーリズムについて、「ロゲイニング」企画を検討したい
ロゲイニングポイントを100カ所設定して、GPS設定や写真撮影を行い、MAPを作成して、体験会も実施し、町内周遊観光を促進させたい

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	地域整備支援事業
事業主体 (連絡先)	上水内郡 小川村 (総務課村づくり係)
事業区分	(1) 地域協働の推進に関する事業
事業タイプ	ハード
総事業費	1,375,055円 (うち支援金: 916,000円)

事業内容

住民自らが作業を行い、村が資材提供等の支援を行う協働方式により、以下のとおり水路整備を行った。

No	地区名	L:延長(m)	備考
1	上野 (大久保) 実施日 9/25、27、29 準備 4人×2日 (8人) 実施 12人×1日 (12人) 合計 20人	69	通学路の 安全確保 (グレーチング 整備)
	合 計	69	



【上野地区 (大久保) での作業】

【目標・ねらい】

- ① 村内1地区で事業実施
- ② 参加住民延べ20人
- ③ 総延長69m

事業効果

○村内1地区、総延長69mの水路整備をすることができた。

○住民と行政が共通の目標に向かって取り組むことにより「協働の村づくり」に向けた意識の向上が図られた。

○子どもの通学路でもある道路の水路整備により、安全性の確保ができた。

※自己評価【A】

【理由】

通学路の安全確保のため、地域での協働作業を実施することで、地域の連帯感が増した。

今後の取り組み

地区からの要望も多く、住民の参加意欲が高い事業であり、地域づくりへの参加意欲を最大限に引き出せるよう、事業を継続して実施する。

なお、実施個所の選定にあたっては、特定の地区に集中しないようバランスに配慮する。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	復活！雑穀生産の拡大と販路確保
事業主体 (連絡先)	一般財団法人 小川村農林公社みらい 上水内郡小川村大字高府8800番地8
事業区分	(6) 産業振興、雇用拡大に関する事業
事業タイプ	ハード
総事業費	1,210,000円 (うち支援金: 907,000円)

事業内容

荒廃農地の発生抑制のため、比較的栽培が難しい雑穀づくりを小川村で再び盛んにする。消費者が求める品質の高い雑穀を生産し所得向上につなげ、生産者の増加を図る。

そこで、雑穀の選別にかかる手間を省きつつ、安定した高品質な雑穀として売り出すため、色彩選別機を導入した。また、栽培講習会を開催することにより、生産者を増やし、関係各所と連携しながら販路の拡大を行った。

- ・栽培講習会の実施 (5月、22名・8月、11名)
- ・色彩選別機の導入 (7～8月)
- ・雑穀の集荷、販売 (9月～2月)

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①小川村と連携しながら、タカキビを中心とした栽培講習会を開催したことにより、タカキビの生産者が前年度より6名増加した。
- ②長野県からの助言による、信州大学からの紹介で新たな販路が開け、収益増となった。
- ③支援金を活用し色彩選別機を導入したことによる品質の安定及び、新たな販路が開拓できたことにより雑穀の1kgあたり単価が上昇し、農家の所得向上につながった。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今後も、色彩選別機を活用し品質の安定を図り、雑穀単価の向上から生産者の所得向上につなげ、荒廃農地の発生抑制をしていく。また、引き続き栽培講習会を開催(年間2回)することにより、令和4年度から令和5年度にかけて大幅に増加した生産量を今後も維持し、開拓できた販路と永続的に関係を築いて行きたい。高齢化に伴い生産者や生産面積の減少も予想されるが、雑穀は簡単に儲かる作物とのイメージを広げ、新たな生産者も継続的に確保していきたい。



【講習会の様子】

【目標・ねらい】

- ①雑穀の生産者の増加
- ②販路拡大
- ③所得向上

※自己評価【B】

【理由】

- ・生産者の増により、生産量が概ね1.7倍に増加した。
- ・販路拡大、品質の安定化に伴い、タカキビの1kgあたり単価が1%増加し、所得向上につながった。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	原材料支給事業
事業主体 (連絡先)	飯綱町(建設水道課 維持管理係) 026-253-4766
事業区分	(1) 地域協働の推進に関する事業
事業タイプ	ハード
総事業費	3,089,295円(うち支援金:2,059,000円)

事業内容

町が生コンクリート等の原材料を地域に支給し、地域住民及び受益者が自ら協働して道路等の維持補修工事を行う。



【目標・ねらい】

- ①住民協働による住環境整備
- ②地域協働によるまちづくり推進の機運の醸成

事業効果

地域住民が自ら施工することで、地域の財産としての愛着と責任を持つようになり、大切に維持管理していく機運の醸成が図られた。

事業参加者の世代を超えたコミュニケーションが図れ、地域の活性化につながった。

業者への発注工事では費用が割高になるが、当該事業により大幅なコスト削減やきめ細やかな整備ができた。

※自己評価【B】

【理由】

自らの施工により、必要な箇所を優先的に整備できるほか、地域の現況を把握することで、今後のまちづくりに寄与できた。

今後の取り組み

地域住民の相互協力により、地域に道路が完成したことは大きな成果であり、次年度以降も支援金事業を活用しながら、必要箇所の整備に取り組んでいきたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	自分らしい働き方を発見！地域で活躍する女性応援事業
事業主体 (連絡先)	飯綱町 (上水内郡飯綱町大字牟礼 2795-1)
事業区分	(6) 産業振興、雇用拡大 (オその他)、(1) 地域協働の推進
事業タイプ	ソフト
総事業費	1, 253, 754円 (うち支援金: 1, 003, 000円)

事業内容

飯綱町は「日本一女性が住みたくなる町」を目標として、若い女性の定住促進のため地域での多様な働きに着目し支援を行っている。しかし、「働きを生む」ことや「働き場所」の取り組みは不足しており、チラシ等スキル習得講座と、好きなことや得意なことを起業に繋げる一歩として初心者向けのマーケットイベントを開催。

- ・チラシ作成講座：9月～10月 全5回
- ・カタログ作成事業：12月～2月 上記講座参加者8名のうち4名に委託
- ・クリスマスマーケット in Iizuna 開催：12月2日 牟礼 B&G 海洋センター体育館 105組 244名来場 16店舗出店

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①チラシ作成講座およびカタログ作成事業を実施し、講座の受講者の中から、チラシ作成に係るワーキンググループを新規に1団体形成できた。
- ②マーケット事業では、町内の個人の出店者が5割を超え、趣味を生かして出店に初挑戦した人もおり、好きなことや得意なことを生かした起業につながる第一歩として有効な場になった。来場者アンケートでは地域の元気が向上したとの回答が9割を超えた。また、6割が出店に興味があると答えており、今後のイベント規模の拡大も期待される。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること

チラシ作成講座により人材育成とグループ形成を図ることができた。今後は、カタログの新規ページ追加や、イベントの広報用チラシの作成業務などの仕事を発注していきたい。

マーケットイベントは町内の女性起業家や子育て世代を中心に開催し、来場者からも出店してみたいとの声があり、次につながる一歩となった。今後はさらに発展させ、町内の女性や子育て世代を軸としつつ、町外にも出店や来場を呼び掛けてイベントの規模を拡大し、更なる地域の交流や活性化を図っていきたい。また、町内の女性自らが主催・企画できるよう援助し、いずれは実行委員会形式でイベントを開催できるよう人材育成に取り組んでいく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【クリスマスマーケットの様子】

【目標・ねらい】

- ① チラシ等を作成できる人材育成、グループ育成
- ② 自分らしく活躍できる地域づくりの推進、元気な地域づくり

※自己評価 【 B 】

【理由】

- ・ワークセンターのワークスペース利用人数、マーケットイベントの来場者数は、目標値の8割。
- ・マーケットイベントでは、9割が地域の元気が向上したと回答。

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	飯綱町課題解決型アイデアキャンププロジェクト発展版
事業主体 (連絡先)	飯綱町 (企画課) (026-253-2512)
事業区分	(1)地域協働の推進 (6)産業振興、雇用拡大 (エ 商業の振興)
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,545,500 円 (うち支援金: 1,236,000 円)

事業内容

フィールドワークで町を知った上で、ワークショップを実施し、強みと弱みを理解する若者を増やす。また、1泊2日で行う、連帯感や絆の強化からより良いアイデアが期待できる、合宿型の「課題解決型アイデアキャンプ」を実施し、そこで出された町の課題解決につながるテーマに沿ったプロジェクトを、地域と一緒に実施につなげていく。今回は2回目であり、「冬の観光を盛り上げる」をテーマとして実施した。



【アイデアキャンプの様子】

事業効果

若者が主体となって地域課題の解決に取り組むことで、若者が今まで関わりがあまりなかった地域の活動に積極的に関わる機会が創出された。また、若者が地域づくりに関わることについて、自分たちで「できる」を体験できた。

意欲ある若者が主体となって、「自分が住みたいまちづくり」を進めることで、あらゆる若い世代が「来たい」、「住みたい」、「帰って来たい」と思えるまちづくりの実現が更に期待できるものとなった。

プレスリリース等を積極的に行った結果、テレビや新聞にとりあげられたため、当事業を広く発信することができた。

【目標・ねらい】

- ① 若者の発想による地域課題の解決方法の提案
- ② 若者の主体性の醸成や「共動」による地域活性化

※自己評価 【 B 】

【理由】

今回はテーマに沿って、広く深く話し合う場づくりから、「つくりたいまち」に近づく個々のアクション＝「種を植えていくこと」と「やりたいこと」につなげ、新たな価値の創造が期待できるものとなった。

今後の取り組み

今回出された企画は令和6年度も引き続き実施し発展させていくこととしている。

また、令和6年度の若者会議については、令和4、5年度に若者たちが考え実行した経験を踏まえ、継続的な取り組みとするための課題等を整理したうえで、テーマを絞ってアイデアキャンプを実施するものとする。また、地域での必要性和実現可能性が高いプロジェクトの実現を目指す。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

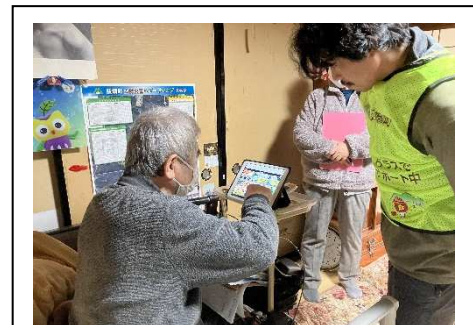
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	飯綱町高齢者等お買い物サポートプロジェクト
事業主体 (連絡先)	飯綱町 (企画課) (026-253-2512)
事業区分	(1) 地域協働の推進 (6) 産業振興、雇用拡大 (エ 商業の振興)
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	762,686 円 (うち支援金: 546,000 円)

事業内容

町内の自宅や施設等で買い物をしたい高齢者等がその場にいながら、店舗にいるスマートグラス装着者に対して、タブレットを通じてほしい商品を音声とポインター機能でリアルタイムに指示をしながら、買い物をするもの。購入した商品は、代金と引き換えに指定した時間に配送する。本プロジェクトを通じて、高齢者等の皆さまがデジタルの便利さを実感してもらえる取り組みとする。



【お買い物サポートの様子】

事業効果

本プロジェクトの実施により、移動に困難を抱える一人暮らし高齢者のくらしの質の向上が図られるとともに、生活満足度の向上が図られた。特に、歩行が困難な身体に障害をお持ちの高齢者については、移動購買車やお買い物サポートバスでの買い物もできないことから、生活に大きな支障をきたしており、本プロジェクトは必要不可欠なサービスとなった。

また、本プロジェクトをスマートフォン教室利用者にアプローチしたことで、今後も飯綱町で生活する上での安心感を提供できたとともに、高齢者のデジタル活用の意識の向上が図られたと考えている。

【目標・ねらい】

- ① 高齢者がいきいきと暮らすことができる地域の実現
- ② すべての世代でデジタルによる便利さを実感してもらう

※自己評価 【 C 】

【理由】

本プロジェクトは、自宅から移動できない障害をお持ちの高齢者にとって必要不可欠なサービスとして利用につながったが、計画時に目標としていた利用者数には大きく届かなかったことから、PRに課題があった。

今後の取り組み

令和6年度以降も、町の高齢者支援サービスの一環として、本プロジェクトは継続して実施する予定である。

特に、障害をお持ちの高齢者にとって必要不可欠なサービスであること、これからもふるさとに住み続けたい高齢者にとって、必要なサービスであることなどから、年間を通じて提供でき、できるだけ多くの高齢者等に利用されるサービスとして、しっかりPRを行い、成長させていきたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある